自循論入門

株式会社カレントカラー

Current Color

目的とゴール

- **目的**
  - 一回限りの人生を生きる意味を最大化する
  - イマココに在ることに驚愕し感謝する

- **本資料のゴール**
  - 自から世界までの成立機序を知る
  - イマココに全てがあることを理解する

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

目次

- 1. **自から世界へ**
- 2. **形式・相・様式**
- 3. **宇宙**
- まとめ

＜参考資料＞
- 自循論と日常概念
- 自循論とプロセス思考

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論の動機

私とは何か？

なぜ、私は
生まれもしなかった代わりに、現実に生まれ
膨大な喜怒哀楽を一回限り経験した後
いつか必ず死んで、未来永劫の無に還るのだろう

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論の要約

- 世界は**自己完結圏**である
- 世界内の知的観測者である私たちは、遠い将来説明し得ることを全て説明し終えるだろう
- たとえ世界内の全てを説明し終えたとしても、いや、説明し終えて自己完結したその時にこそ、なぜこの世界が（無い代わりに、この姿で）現に存在しているのか、という問いが絶望的なほど**説明不可能な問い**として残る
- その時にこそ、私たちが現に存在しているこの**大奇跡への驚愕と感謝**が絶対となる
- その驚愕と感謝こそが、誰にも奪えない人生における**絶対の幸福**である
- 人生のゴールとは、いま直ぐ、そしてずっとこの絶対の幸福を感じることである

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論の説明順序

「私」から出発し、世界を説明し尽くす

- 手元にある手堅い「**私**」から出発する
  - 「私」から「**自**」という概念を抽出する
    - 「自」から**形式**（時間・空間・論理）を導く
    - 「自」から**相**（物理・生命・精神）を組み立てる
    - 「自」の限界として**様式**（存在・実在・現実）を画定する
  - 「私」から「**知性**」という性質を抽出し、
    知性のイマココと宇宙の表裏一体性を論証する
    - **知性原理存在論**
    - **有限原理**
    - **哲学的な一致の定理**
  - 世界が有限な**自己完結圏**であることに腹落ちする
- 「**私**」と「世界」が現実に存在すること自体は
  否定不可能かつ理解不可能な大奇跡であり、そこに疑いなく
  驚愕と**感謝**を捧げることが**絶対の幸福**であることを結論する
  - 人生のゴールは、人生を幸福に生きるプロセス（今）である

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

1. 自から世界へ

世界はどのように組み上がっているのか

- 無→自→対→相
- 説明の輪

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

本節で学ぶこと

- 世界という概念が、どのように
  組み上がっているのかを、
  「私」から出発して確認します
- 「私」から「自」という概念を抽出し、
  世界は、無→自→対→相 という機序で
  創られることを学びます
- 世界は有限な自己完結圏であり、
  大きな説明の輪であることを学びます

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

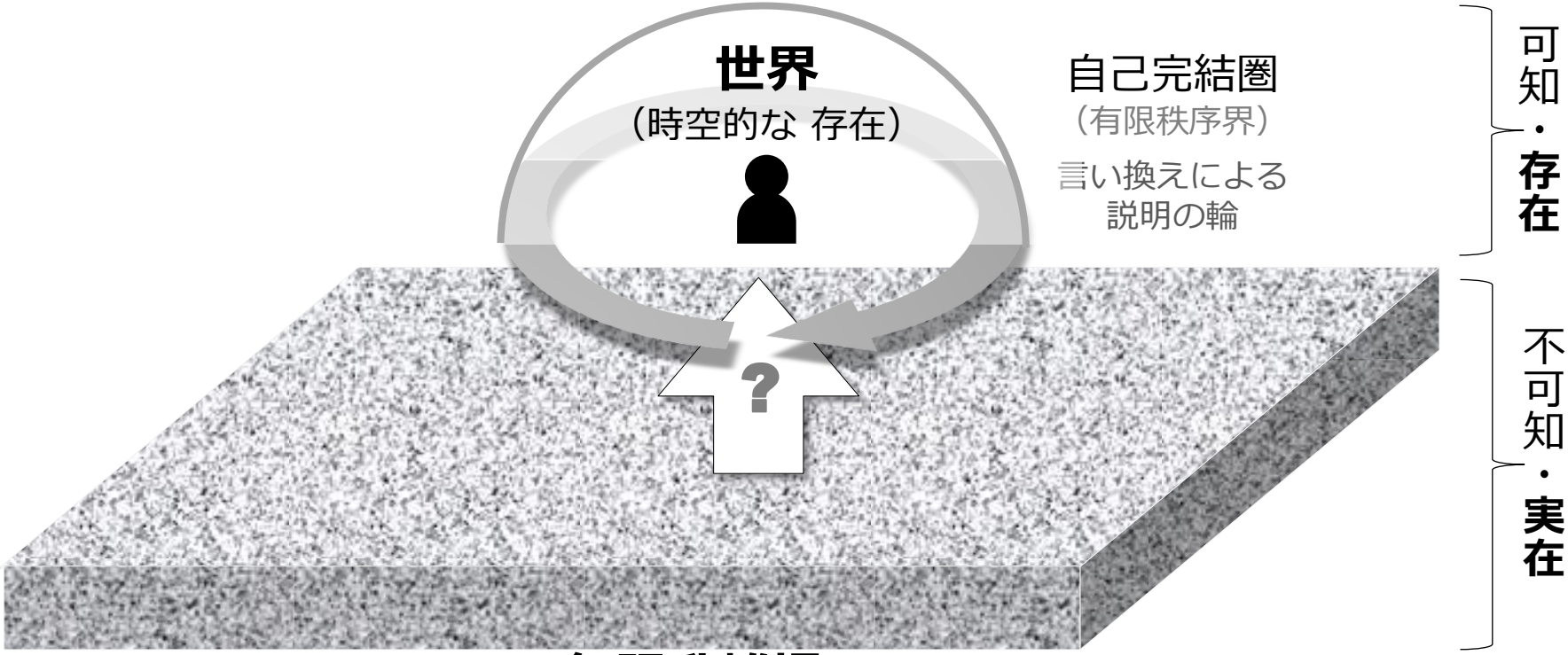
世界

世界とは 無から自力浮上した自己完結圏

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

世界

世界とは 無から自力浮上した自己完結圏



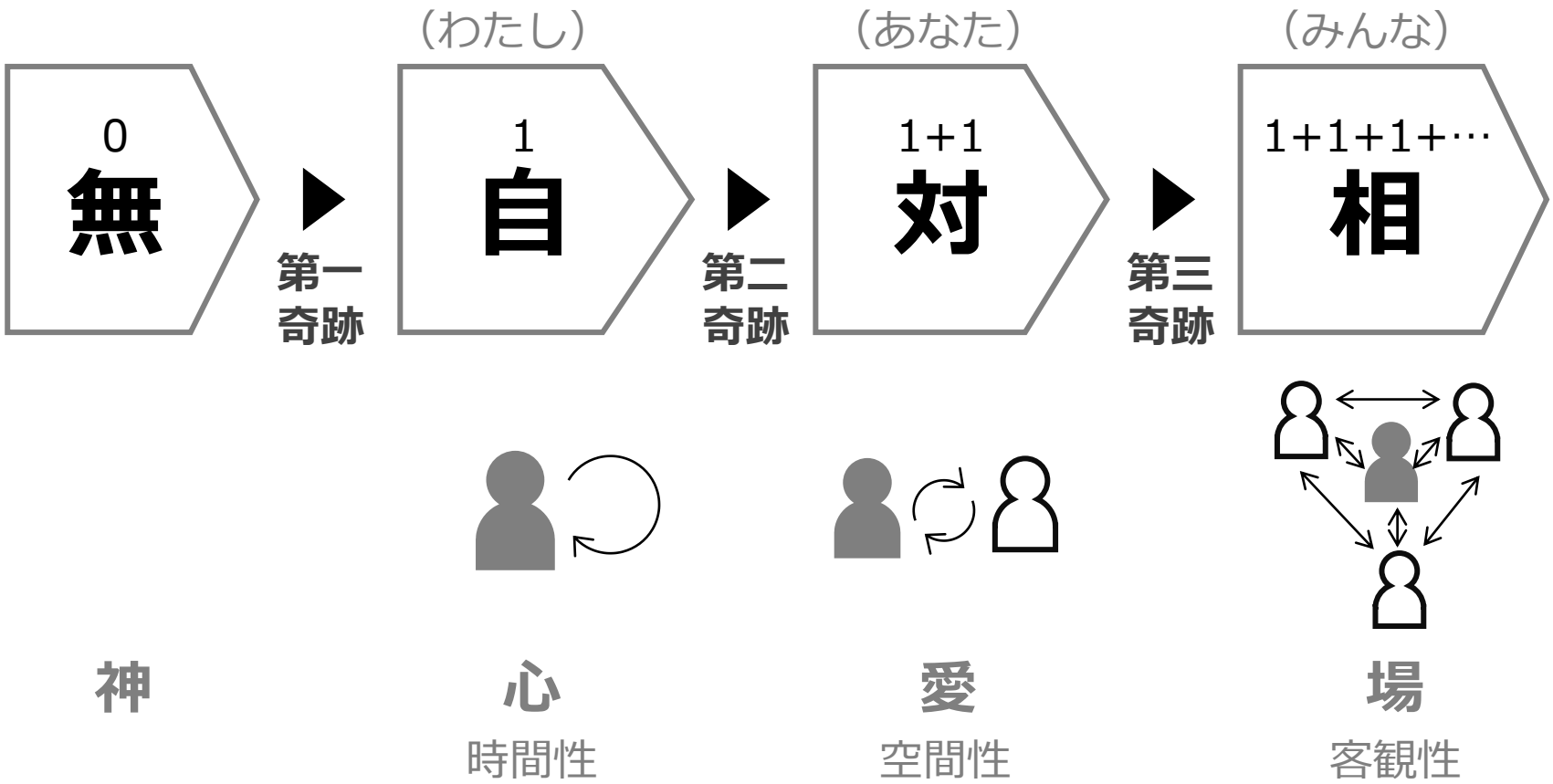
無限乱雑場（＝無）
（非時空的な 実在）

存在してしまった世界の内部では、説明の輪で全てを説明し尽くせるが、
存在そのものがなぜ存在しているのかは、永遠の不可知であり神秘である

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

世界

世界は 無→自→対→相 の機序で創られる



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自

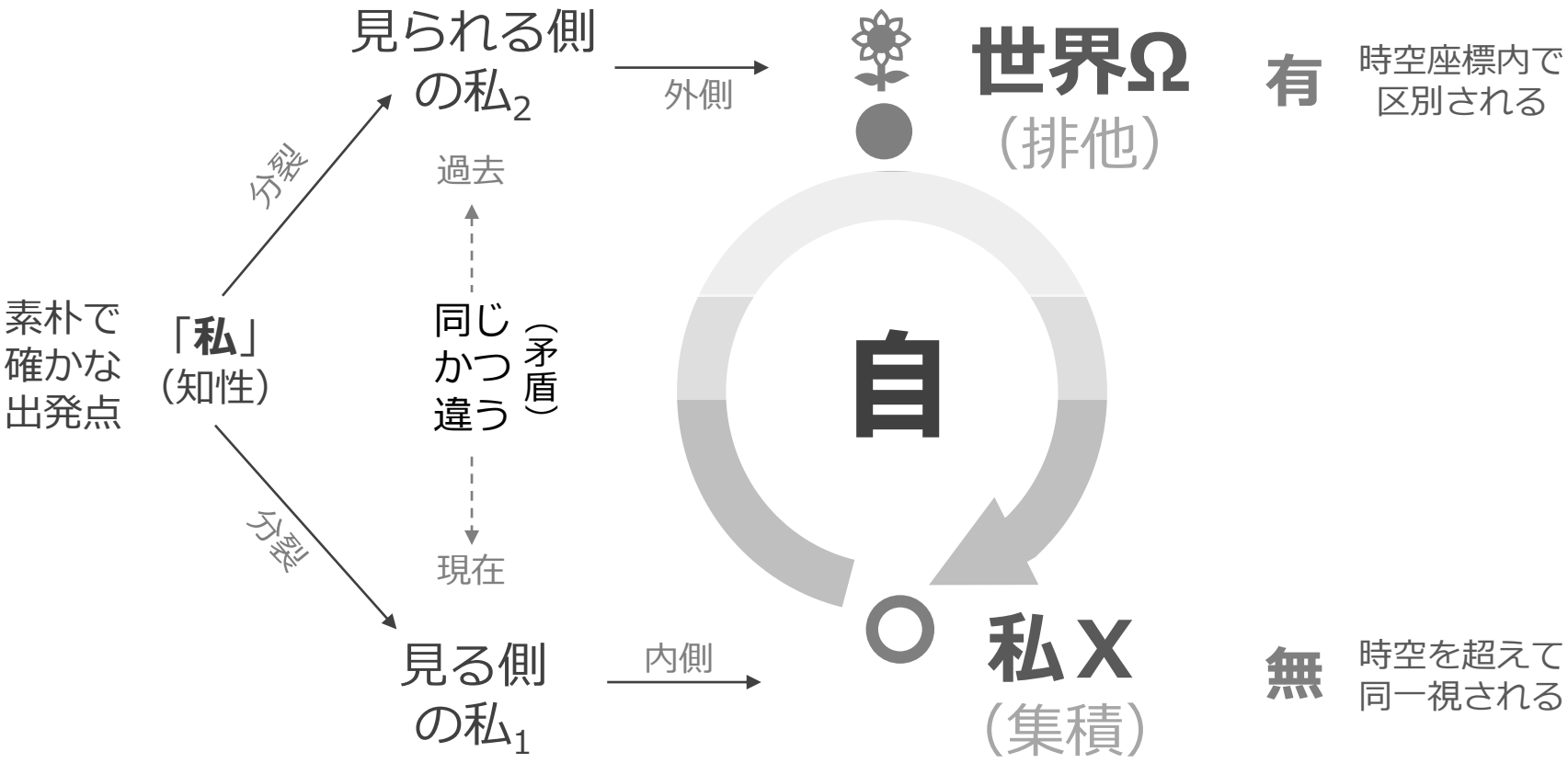
無から理由なく生じた 自己完結する説明の輪

主体と客体が分化する前の
本質的に矛盾を抱えた、閉じた説明の輪であり
あらゆる概念の基底・根本・根源

「物事には必ず原因がある」という考えは、知性の思い込みに過ぎない。循環する**説明の輪**の中の相関関係の一部を、因果関係と見做すのは、知性の都合または好みに過ぎない。また、原因を辿ると、究極的には全くの偶然としか呼べない地点に逢着し得る。自循論では、説明し得る限りの領域を「**大きな説明の輪**」（自己完結圏＝自）として、説明し得ない偶然を「**大奇跡**」（自の存在理由＝自）として、全てを「自」に収容していく。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

「自」は意味の素粒子、世界最小の矛盾

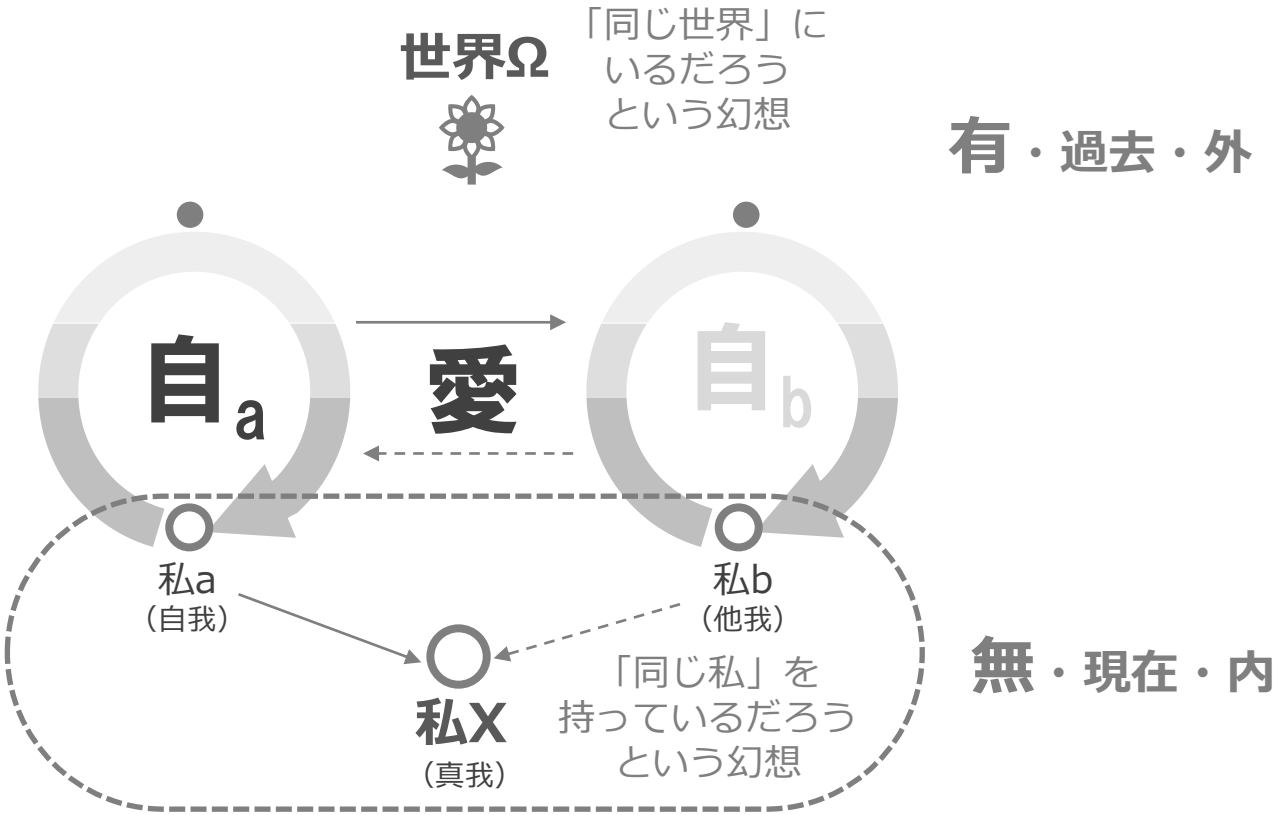


自己無矛盾性が破綻するまで継続するサイクル
（継続の原動力は矛盾の修復）

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

対 | 第二奇跡

一対の「自」が偶然対等に結びつく「愛」



それぞれの「私X」を中核とする個別の自己無矛盾な独我論的世界が
同じ「客観的な世界Ω」を無矛盾に共有しているという幻想の成立
（たまたま並走していた「自」が、「対」として結びつく）

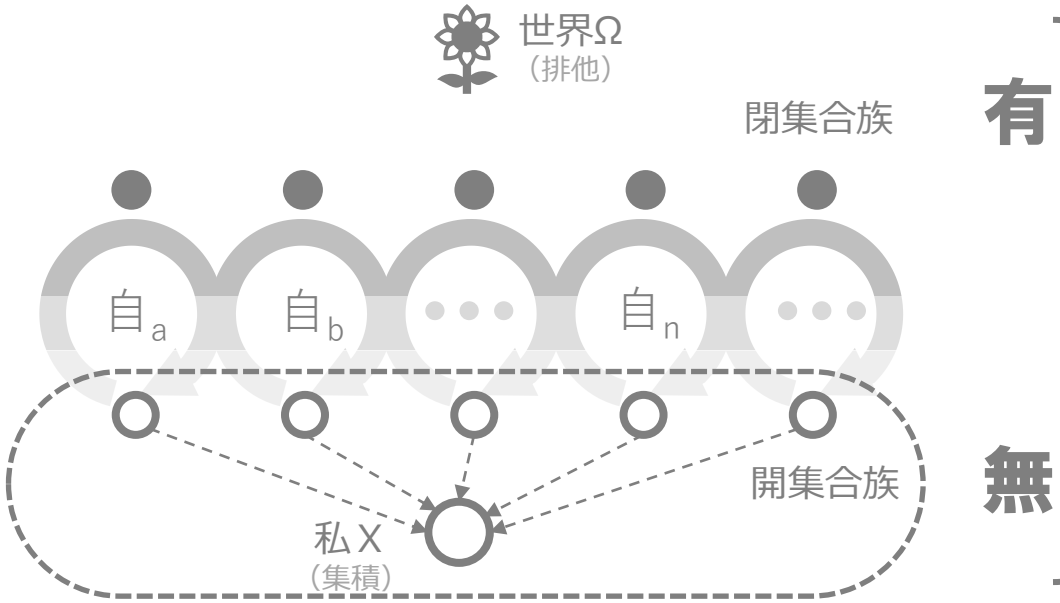
Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

相 | 第三奇跡

複数の「自」が無を基盤に結び付く「場」

皆が同じ「客観的世界」を
共有しているという幻想

皆が同じ＜私＞を
共有しているという幻想



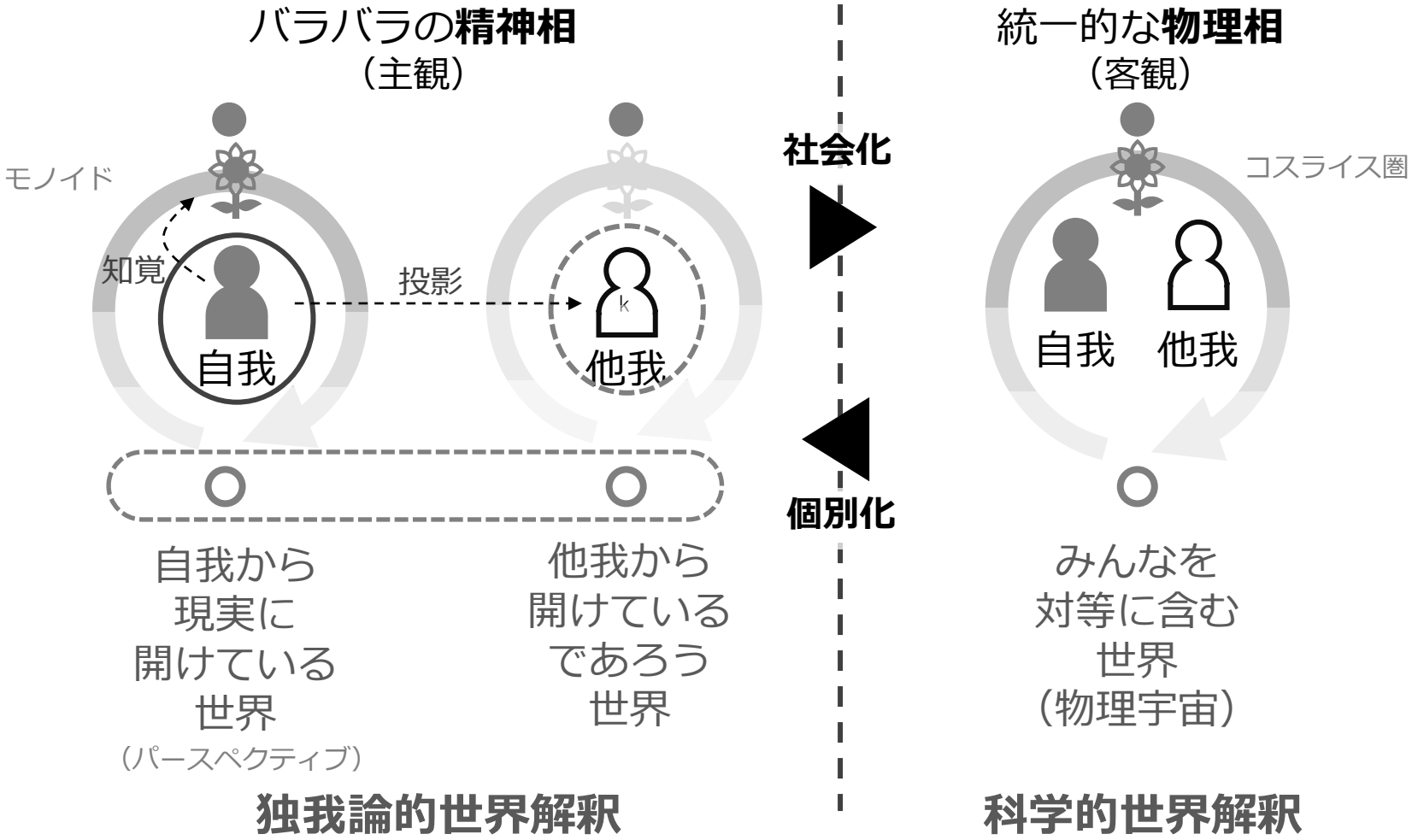
「有」が無矛盾性の限界まで
複雑化・豊饒化し続ける → 臨界に達した「有」が
「無」を包み込み返す

- **「無」には種類が無い**（区別がつかない）
- 「無」を不動点・接着剤として「有」を束ね「相」を成す

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

相｜客観の構成

自我が開いた世界から 包み込み返される

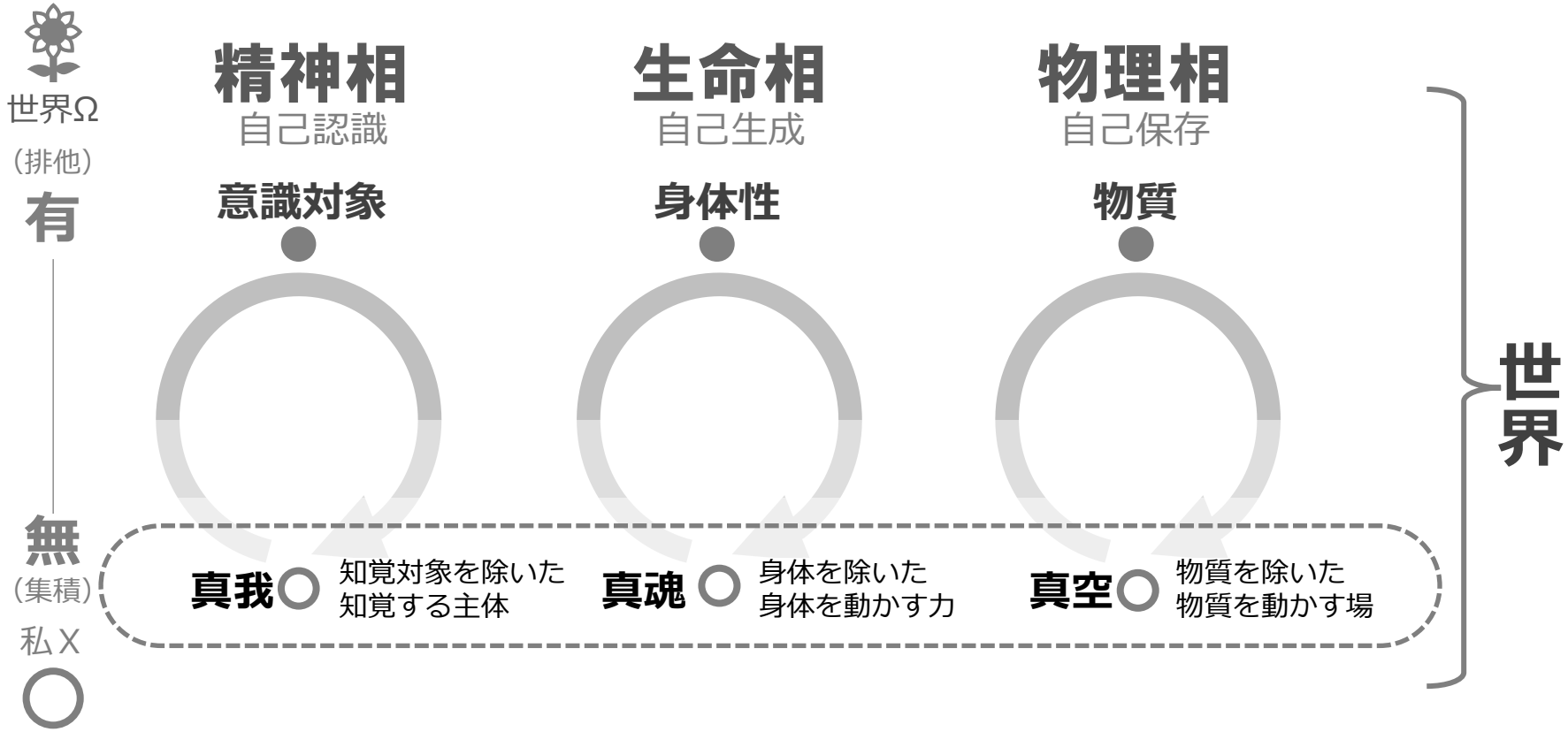


Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

相｜世界の構成

無 自 対 相

複数の「相」が 無を基盤に結び付く「世界」

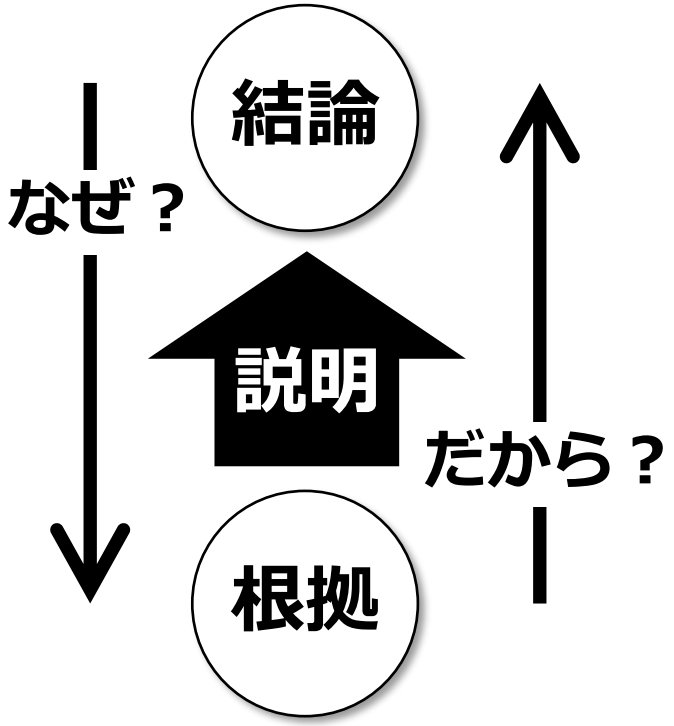


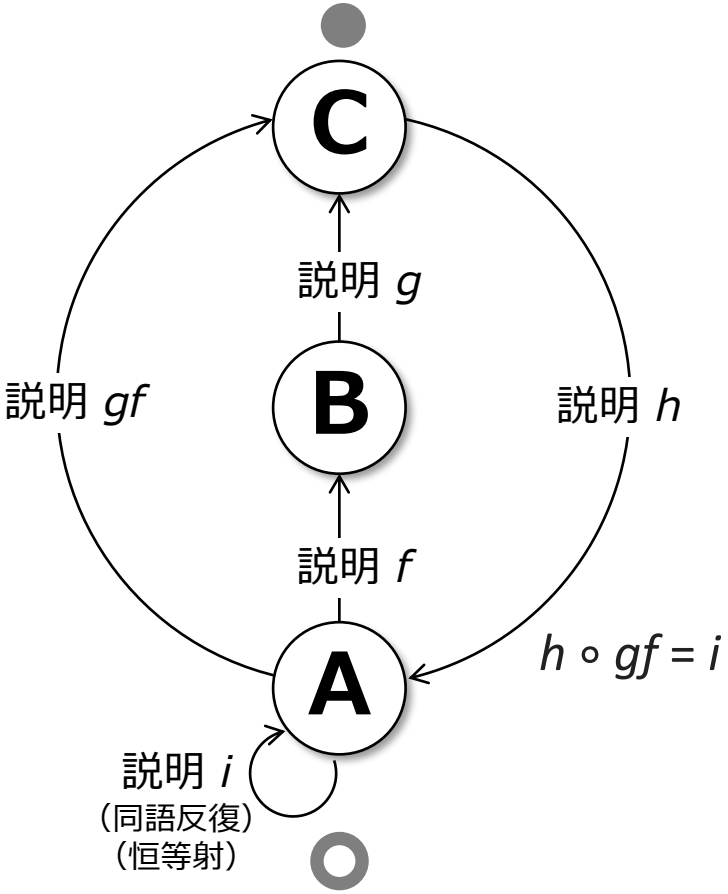
- 「対象が無い」という「無」を、
  「私」が引き受けて、相が接着され、世界が完成する

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

説明の輪

根拠から結論を妥当に導き合う 閉じた集合





Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

説明の輪

どこにも 最根源の無い 説明の循環

● 世界Ω

この物理宇宙の法則や定数は
生命と精神を解として持つ
（論理的根拠）

なぜそんなに
都合よくできている？

精神が宇宙の内部から
宇宙を観測している
（主観的根拠）

なぜ観測者がいると
主張できる？

私は生まれもしない代わりに
現実に存在している
（現実的根拠）

なぜ私は存在
できている？

天体・生命・精神を持つ
物理宇宙が開闢した
（客観的根拠）

なぜ物理宇宙は
このような姿なのか？

自

○ 私X（イマココ）

人間には 何が最も確実・根源的・手堅い証拠なのかは 分からない
ただ**説明の輪**が与えられているだけ

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

説明の輪

無 自 対 相

世界とは循環論法である

ミュンヒハウゼンのトリレンマ	自循論の立場
Aの正しさの根拠Bが必要、 Bの正しさの根拠Cが必要、 と根拠を求めると**無限背進**になる	世界は有限なので、 無限背進にはならない （※結果として循環論法になる）
無限背進を止めるために 何かを**根拠無しに正しい**とすると 正しさは保障されなくなる	無根拠に正しいことは無い （※世界＝循環論法の総体が存在する ことだけは、無根拠に正しい）
A→B→C→…→A と 根拠がどこかでAに戻ってくるなら **循環論法**となり無効	循環論法（説明の輪）の総体こそが 世界の実体であり、その大きさや 複雑さが、世界の豊かさである

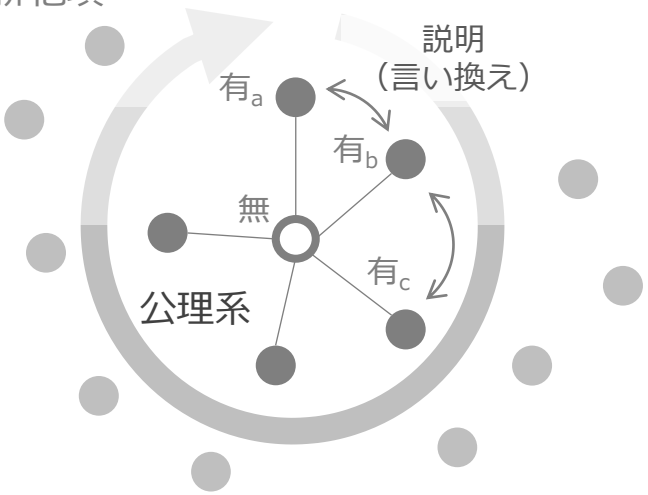
Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

説明の輪

世界とは 大きな説明の輪 である

小さな説明の輪
（自己純化） 写像的

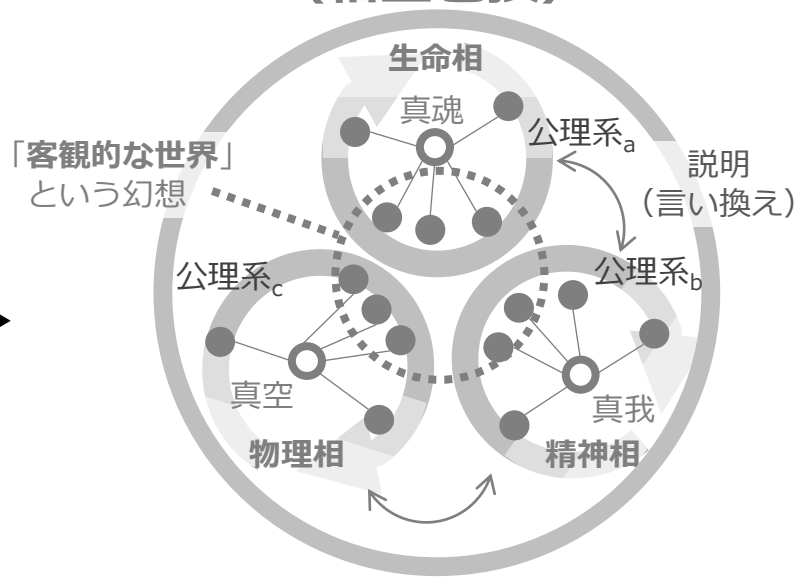
○：集積項
●：排他項



「相」
（特定の説明可能集合）

無矛盾な限り排他項（有）を取り入れ
集積項（無）の純度を高め続ける
（一つの相の意味が深まる）
（但し、証明不可能性・**不完全性**を抱え込む）

大きな説明の輪
（相互包摂） 圏論的



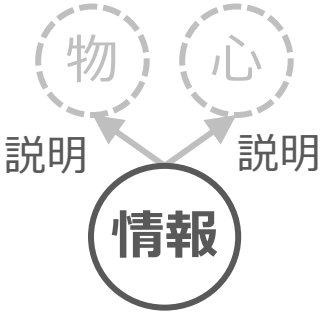
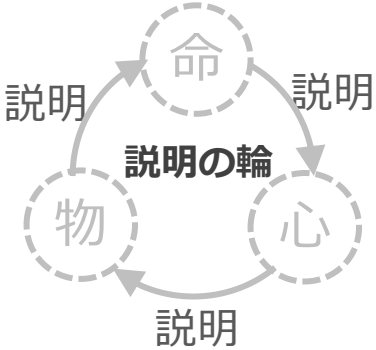
「世界」
（外部の無い自己完結圏）

相が最根源の説明原理を自己主張し
説明により相手を包み込もうとする運動
（世界全体の意味が豊かに安定する）
（ある相の不完全性を別の相が補完する）

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

説明の輪

世界に実体は無い あるのは説明の輪だけ

唯物論	唯心論	情報二相理論	自循論
			
実体は **物**	実体は **心**	実体は**情報** 物や心は 情報の見え方	実体は**不可知** 物・心・命の 説明の輪のみ
物理主義	現象主義	性質二元論	非実体三元論
一元論	**一元論**	**中立一元論**	**零元論**

現象的意識を除外した物理から現象的意識を説明するという思考は原理的に成功し得ない
物理が意識を説明し、意識が物理を説明する（お互いを底から支えあっている）だけ

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

説明の輪

世界は 物理・生命・精神 の 大きな説明の輪

自循方程式

世界（自己完結）＝ 物理相（自己保存）
＋ 生命相（自己生成）
＋ 精神相（自己認識）

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

本節のまとめ

- 世界は 無→自→対→相 という
  三段階の奇跡で生成される
- 自己無矛盾な説明の輪で
  世界内の意味は豊かに膨らみ
  自己完結する

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

2. 形式・相・様式

世界はどのような枠組みになっているのか

- 形式・相・様式
- 最大の説明の輪
- 自循論

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

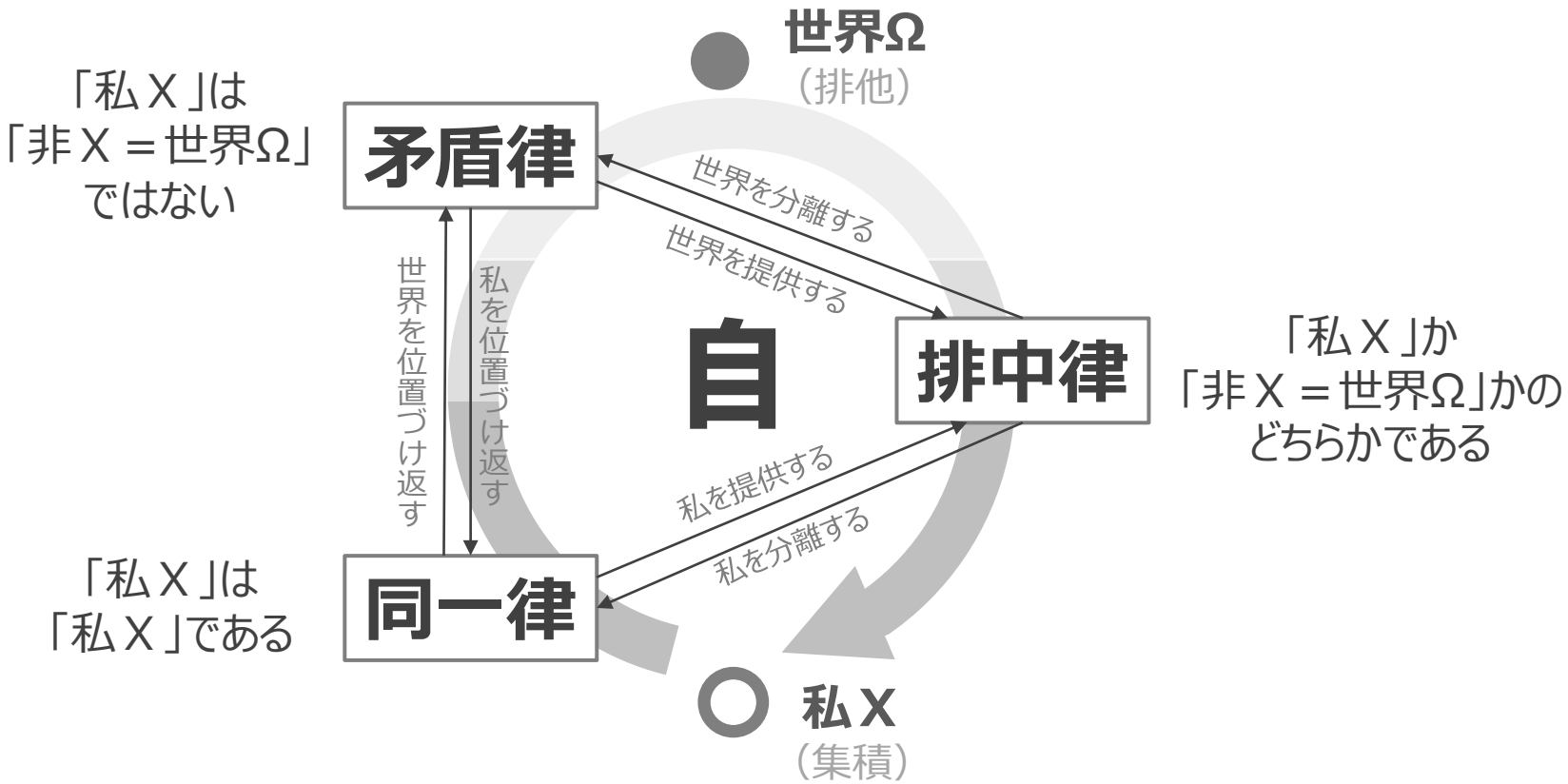
本節で学ぶこと

- 「私」から抽出した「自」に沿って世界の枠組みが整理される
- 形式（時間、空間、論理）が「自」から導かれる
- 相（物理相、生命相、精神相）が世界を形作る
- 様式（存在、現実、実在）が「私」の限界である

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

形式｜論理（思考三原則）

論理とは、私と世界の位置関係



- 世界と私の位置関係が**論理**の基盤となる
- 推論は、空間の内部で実行され、時間を消費する

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

形式｜論理（爆発律）

矛盾からは何を結論しても良い

「私にとっての私」は、時間を隔てても同一であり続けると仮定されているが
「私$_1$にとっての私$_2$」は過去化・対象化された別モノであるから、同一ではない
「私」は、本質的に**矛盾**している「無」

$$\dfrac{\dfrac{X \wedge \neg X}{\neg X} \qquad \dfrac{\dfrac{X \wedge \neg X}{X}}{X \vee \Omega}}{\Omega}$$

1. X「私は私である」かつ ¬X「私は私ではない」という矛盾を前提する（X∧¬X は真）
2. 前提から X を取り出す（X は 真）
3. X に、任意の命題Ωを「または」で結んで良い（X ∨ Ω は真）
4. 前提から ¬X を取り出す（¬X は 真）
5. X ∨ Ω のうち、X は偽となったので、Ωだけが残る（Ωは真）

時間を隔てて同一であり続ける定点の私から世界が見えているが（X ∨ Ω）
一方で私は時間によって変わってしまう（同一ではない）とも言えるので（¬X）
私のほうが消去されて、世界のほうだけが残る（Ω）

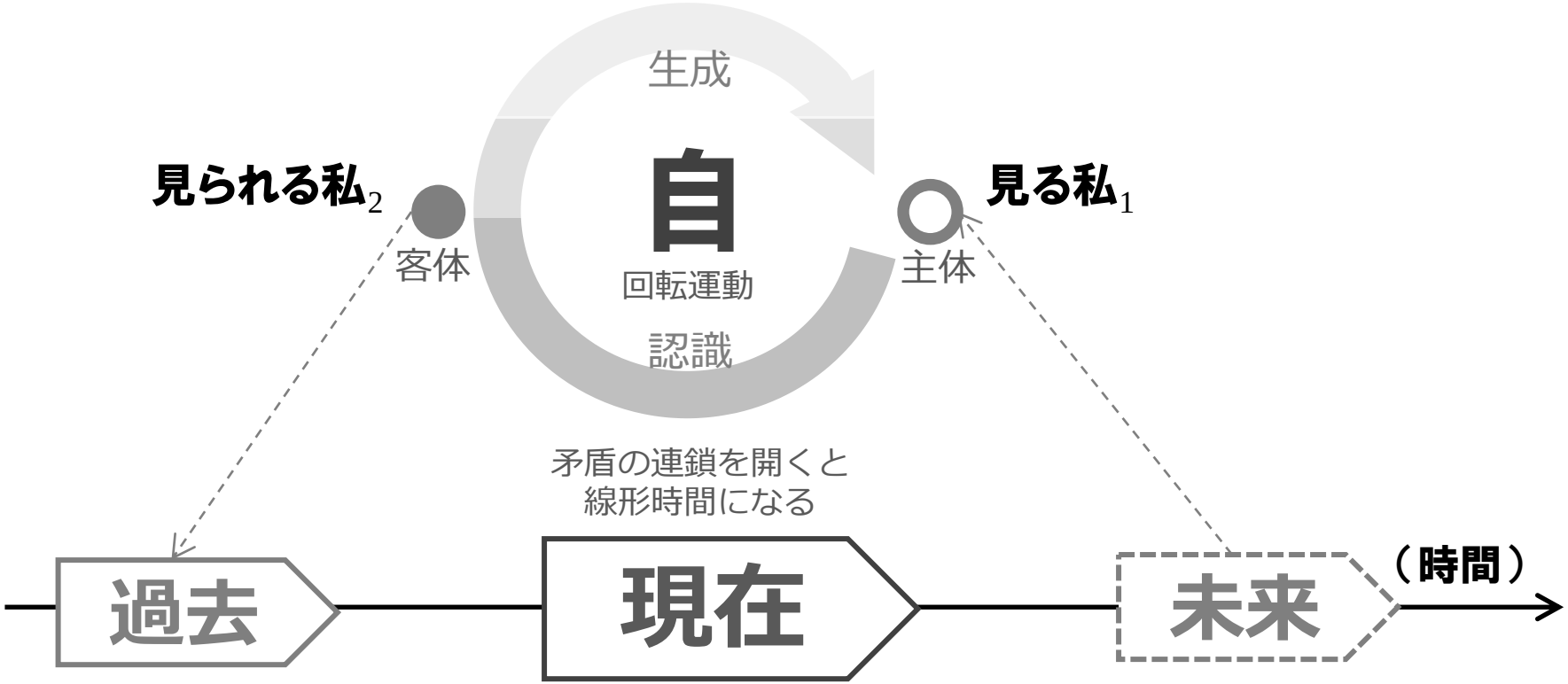
私 から開けた **世界Ω** は、無条件に**真**
疑い得ない「私X」という前提が矛盾しているからこそ
「私X」は無制限に世界を開く仮想極点となる

「私」とは、世界を成立させるための帰無仮説であり、本質的に世界内には存在しない「無」

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

形式｜自と時間

「自」の矛盾と分裂が、時間を生む

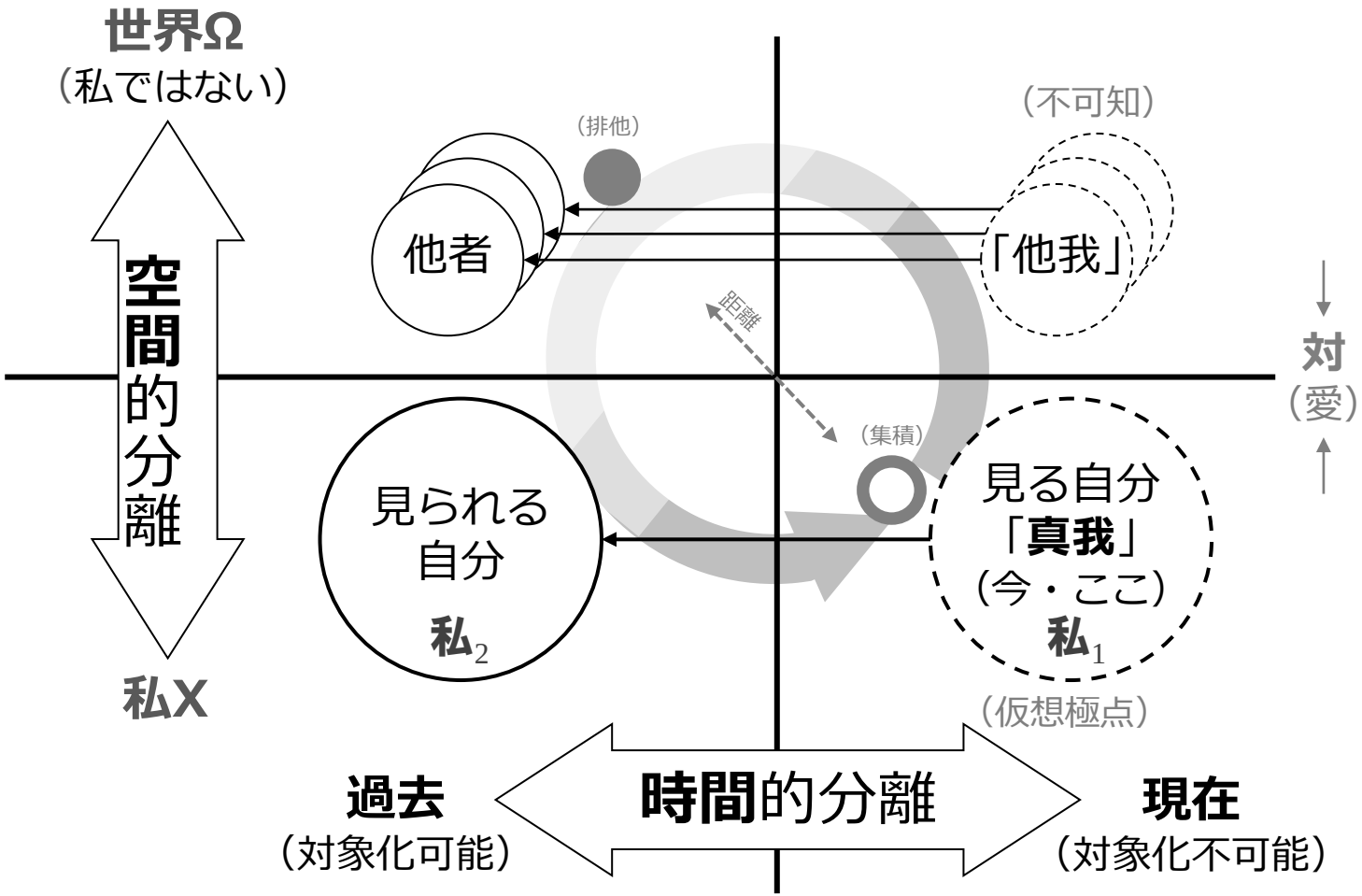


「私$_1$＝見る私」「私$_2$＝見られる私」について
X「私$_1$＝私$_2$」と ¬X「私$_1$≠私$_2$」を 同一と見なす矛盾が 時間的運動を生む

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

形式｜自と時空間

「自」が 時間と空間を 開闢する



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

形式

形式とは、排他と集積の対

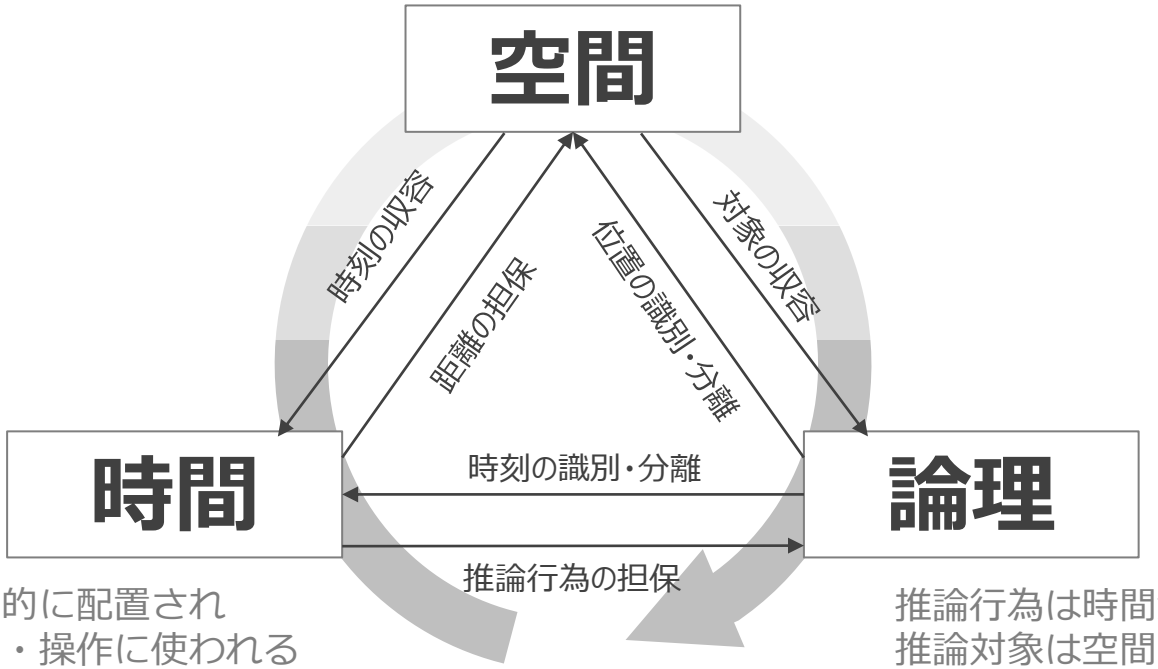
空間	時間	論理	
外	過去	異	有
内	現在	同	無

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

形式

時間・空間・論理 が 説明の輪 を成す

距離は時間で分離され
対象は論理で分離される



時刻は空間的に配置され
時間は推論・操作に使われる

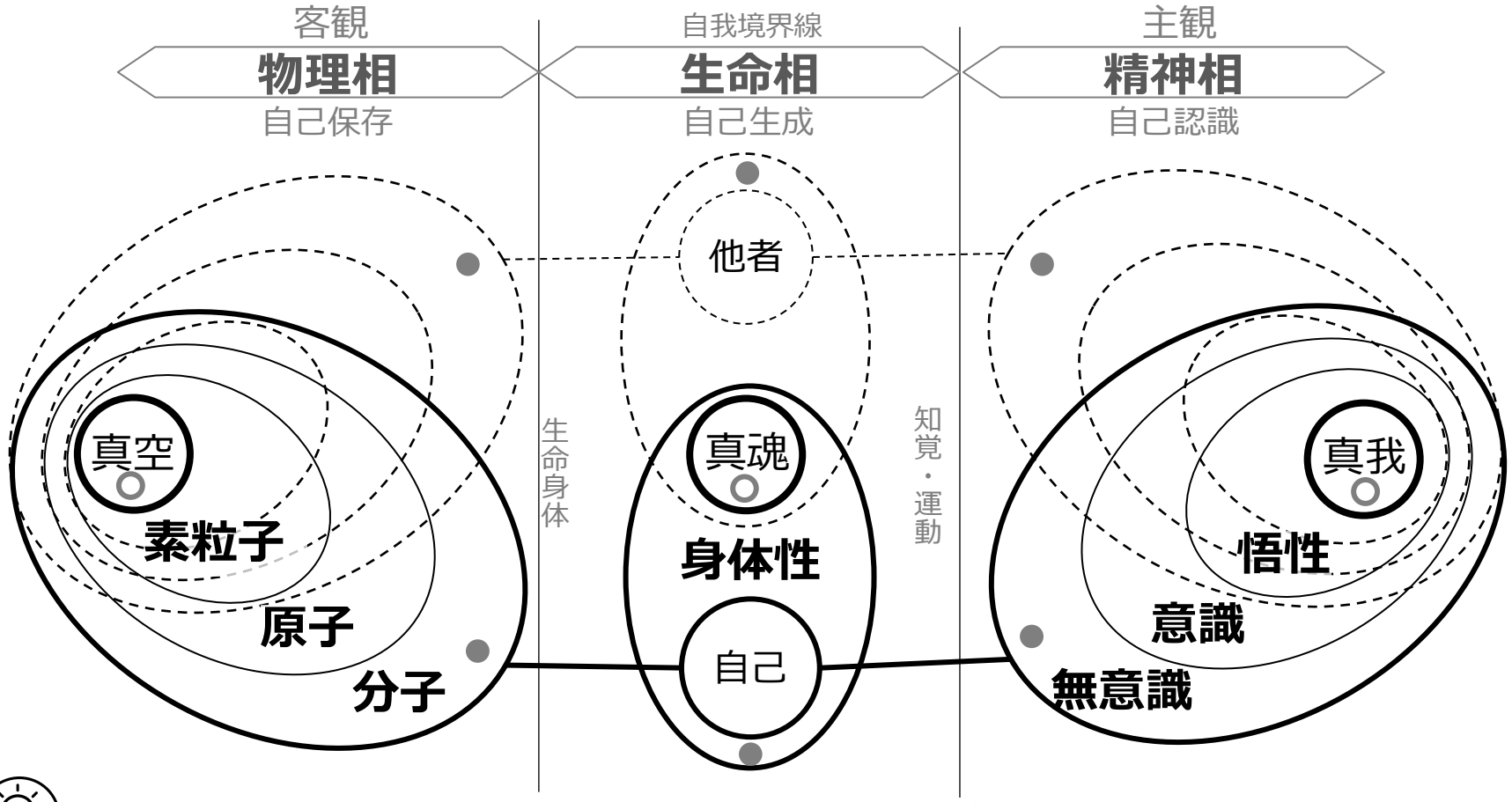
推論行為は時間消費を必要とし
推論対象は空間的配置を必要とする

「空間のない時間・論理」「時間のない空間・論理」「論理のない時間・空間」は
どれも成り立たない。時間・空間・論理という形式は、セットで初めて意味を持つ。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

相

世界は 物理・生命・精神からなる



世界の説明原理（小さな説明の輪）には物理・生命・精神があり
個々の説明の輪は不完全であり、相互説明（大きな説明の輪）によって自己完結する

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

相 × 形式

形式 相 様式

世界は 物理・生命・精神からなる

			世界		
			物理相	**生命相**	**精神相**
形式	原論理	**有**（排他項）●	物質	身体性	意識対象（クオリア）
		無（集積項）○	真空	真魂	真我
			物質を取り除いた後に残る場	身体の内部に宿る生き続ける意志	意識の核にある無内包の現実
	原時間		物理時間	成長・進化	主観時間
	原空間		物理空間	個体・種	認識空間
相	全体集合		物理宇宙（可観測宇宙）	生命系統樹（命の連鎖）	精神界（情報空間）
	機能		自己保存	自己生成	自己認識
	性質		安定性	有限性	志向性

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

相

世界の様々な観点は 相に要素分解できる

観点＼相	物理相	生命相	精神相
社会的観点（文化・経済）	○	○	○
科学的観点	○		
ビジネス的観点	○		○
生活的観点	○	○	△
倫理的観点		△	○
感情的観点		○	○
宗教的観点	△	△	○
環境的観点	○	○	

(○印：強く関係する、△印：場合により関係する、空白：あまり関係しない)

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

相

物理・生命・精神 が 説明の輪 を成す

有限性の内部で自己を増殖させ
種としての繁栄を目的化する

自己生成

生命相

- 代謝
- 自我境界
- 自己複製

目的の提供

安定の提供

認識の提供

目的の提供

- 時空
- 物質
- 法則

物理相

認識の提供

安定の提供

精神相

- 自己
- 対象
- 意識

自己保存

自己認識

対称性・保存量を通して
安定した時空という器を提供する

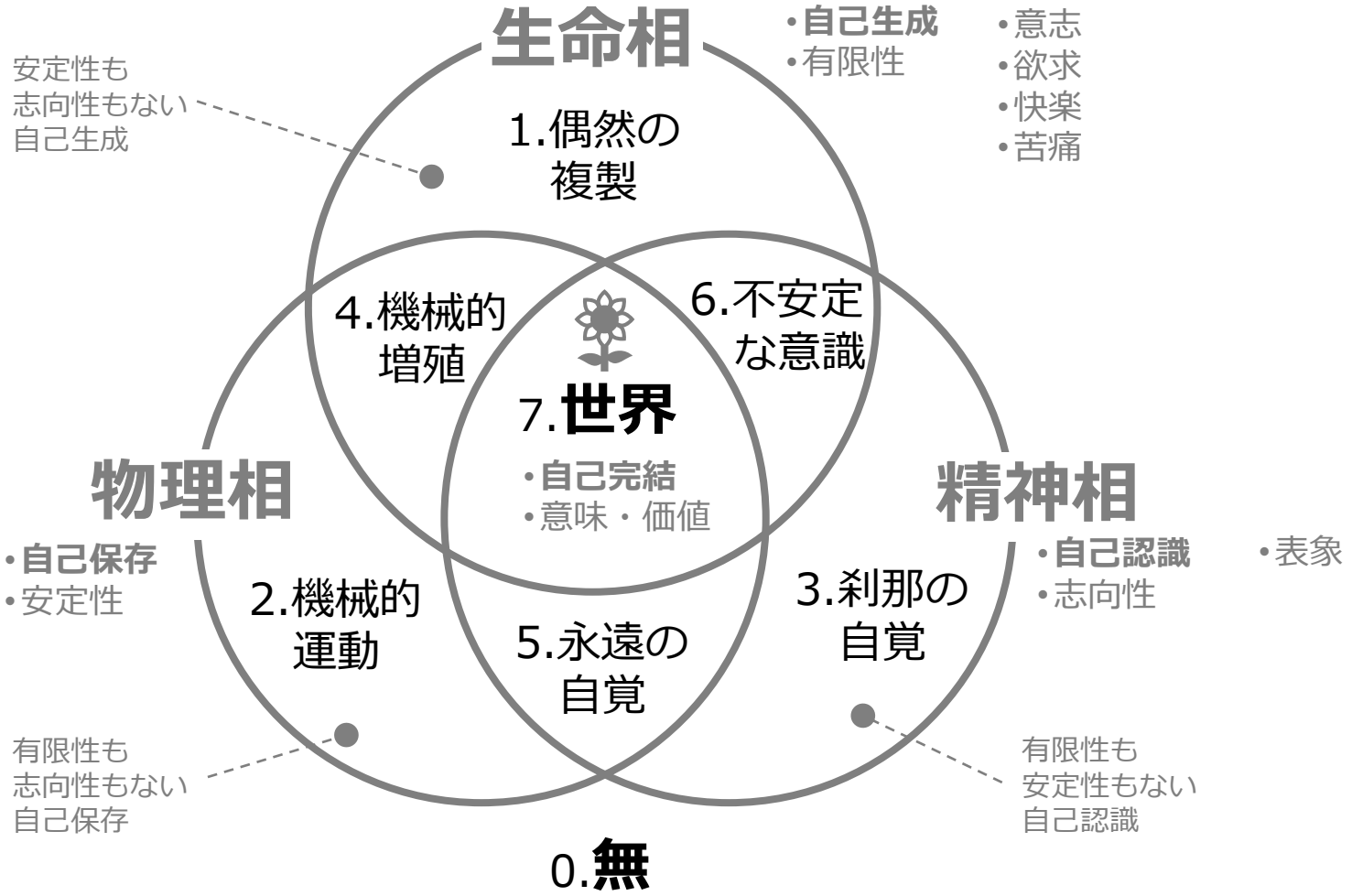
世界と自我を区別し
自我から世界を**認識**し返す

どれか一つの相が世界の最根源というわけではない

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

相

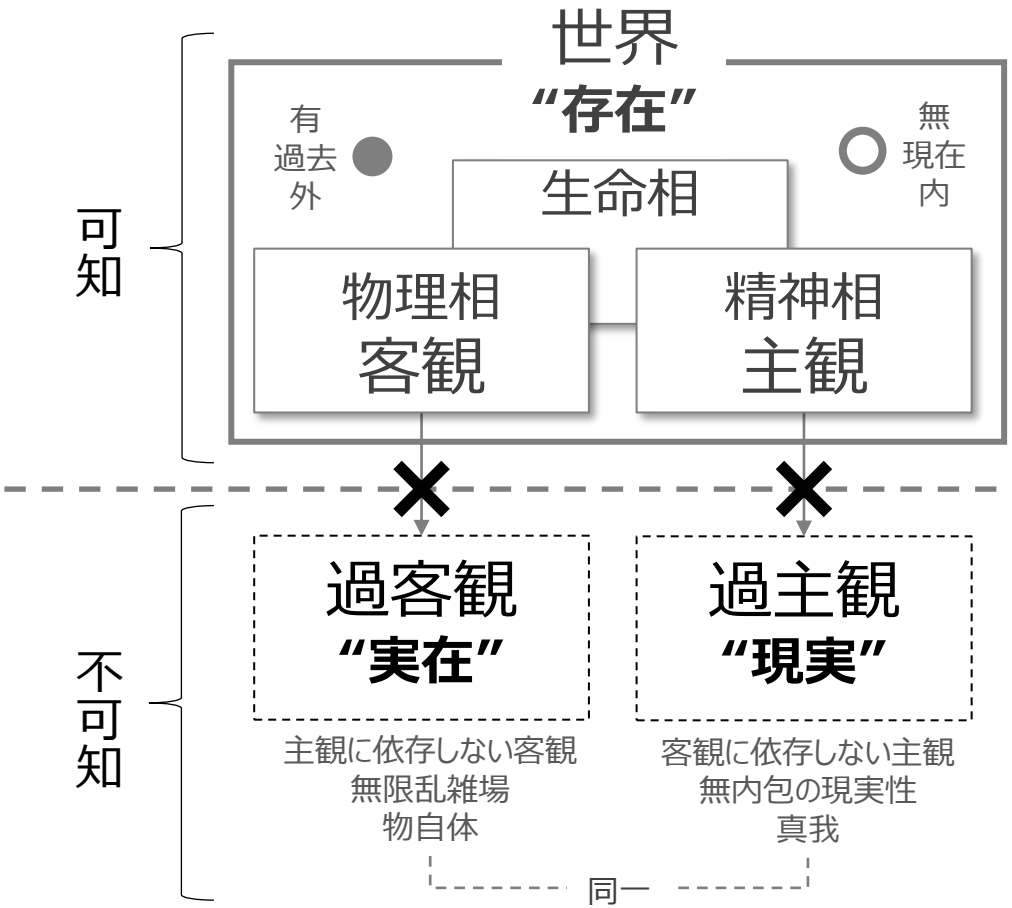
物理・生命・精神 が 揃って世界になる



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

様式

客観・主観から 過客観・過主観が生じる



「有」と「有の欠如」
という関係を通して語られる
「**相対有**」⇔「**相対無**」
（例）まだ死んでいない
生きている私（相対有）
（例）私が死んだ後の
いなくなった私（相対無）

それ自体で完結している
「**絶対有**」＝「**絶対無**」
（例）~~生まれもしなかった~~
~~私にとっての私~~（絶対無）
（例）~~私とは無関係に~~
~~元々あるもの全て~~（絶対有）

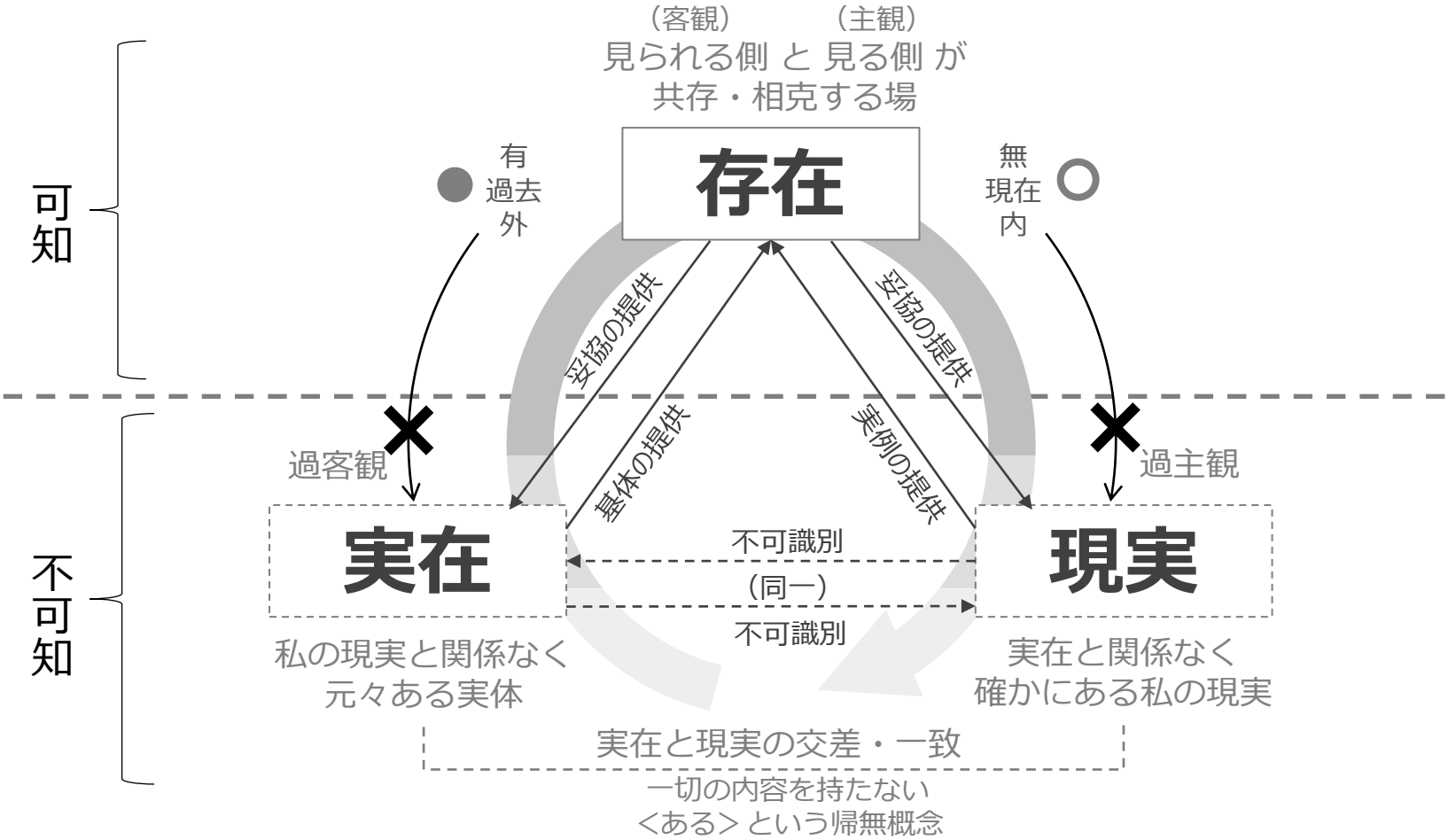
（※取り消し線は、この言葉では語りたかった
有や無の純度に（まさに語ってしまうことで）
至れていない、という意味）

過客観と過主観は、可知の限界を画定するための帰無概念

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

様式

実在・存在・現実 が 説明の輪 を成す



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

様式 × 形式

世界 = 形式を持つ様式 = 存在

		様式				
		実在 (物自体)	● （排他）	存在 (世界)	○ （集積）	現実 (真我)
		過客観	✕	客観	主観	✕ 過主観
形式	空間	主観に依存しない客観		外	内	客観に依存しない主観
	時間			過去	現在	
	論理			有	無	
				異	同	

（同一）

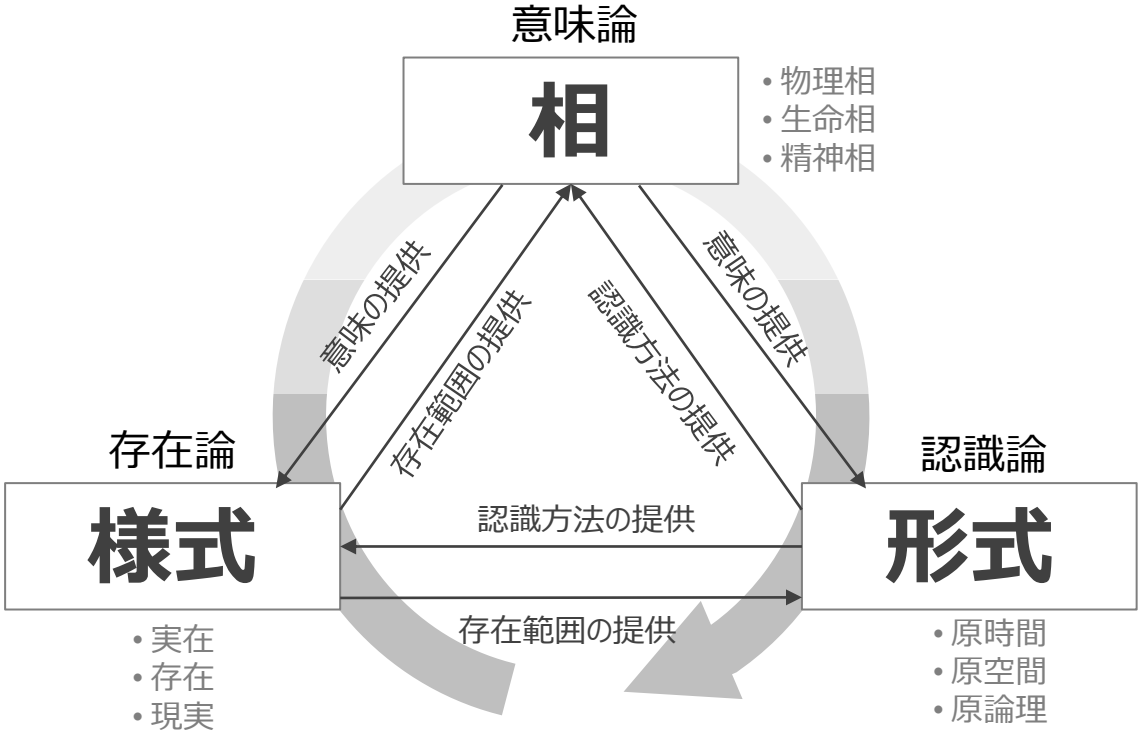
「なぜ私は、生まれもしない代わりに、現に生まれて生きているのか」という**現実性**と、
「なぜ、何も無い代わりに、もともと何かがあったのか」という**実在性**は、
真逆の対象を意味しているようで、実は同じ概念を意味している。即ち、世界の存在以前の、
内容を全く伴わない、＜ない＞ = ＜ある＞ という概念を指し示している。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

最大の説明の輪

形式 相 様式

形式・相・様式 が 最大の説明の輪 を成す



知性は、存在論・意味論・認識論の循環外には出られない

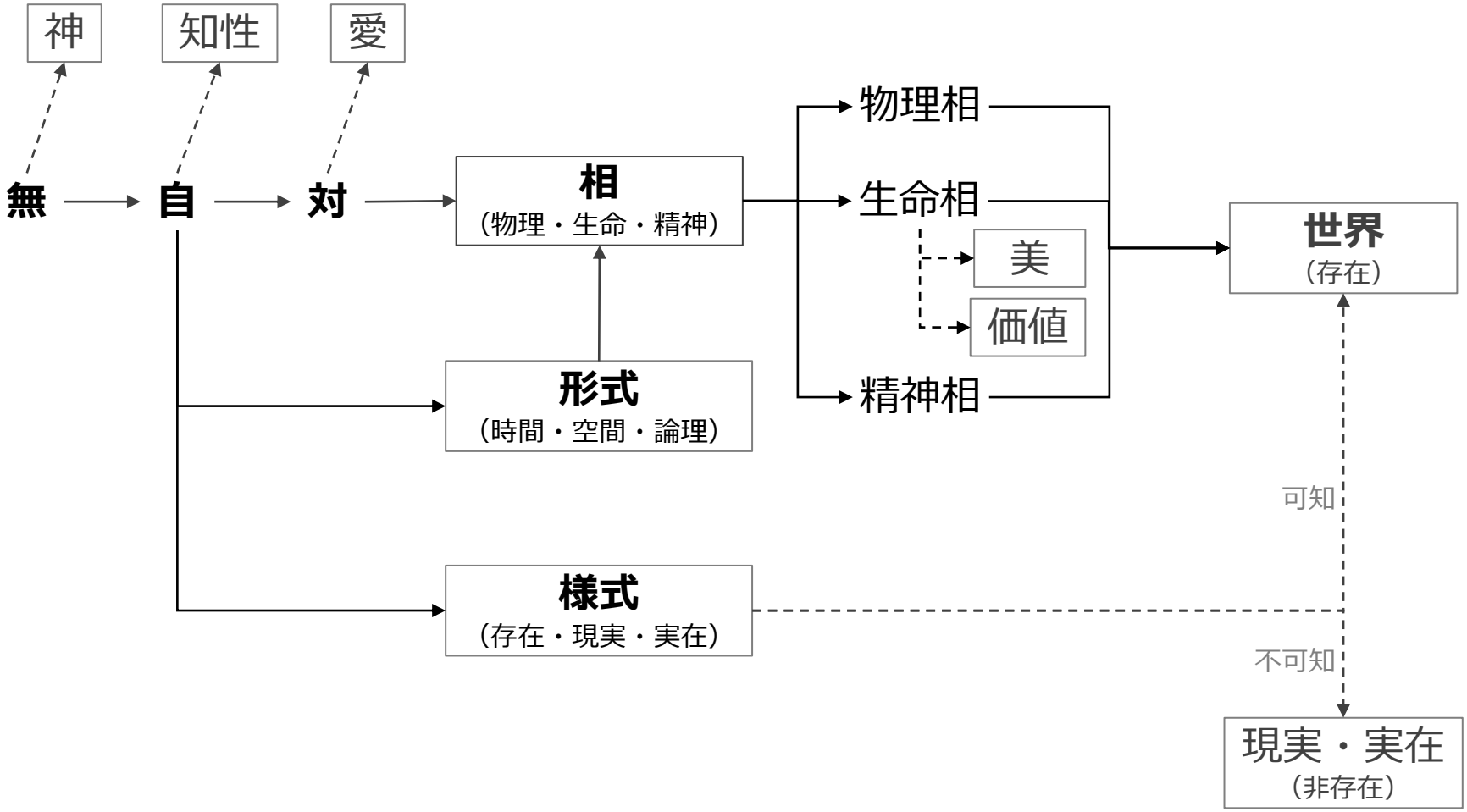
どれか一つが最根源というわけではない 相互に説明し合うだけ

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論 *ver. 4.2*

形式 相 様式

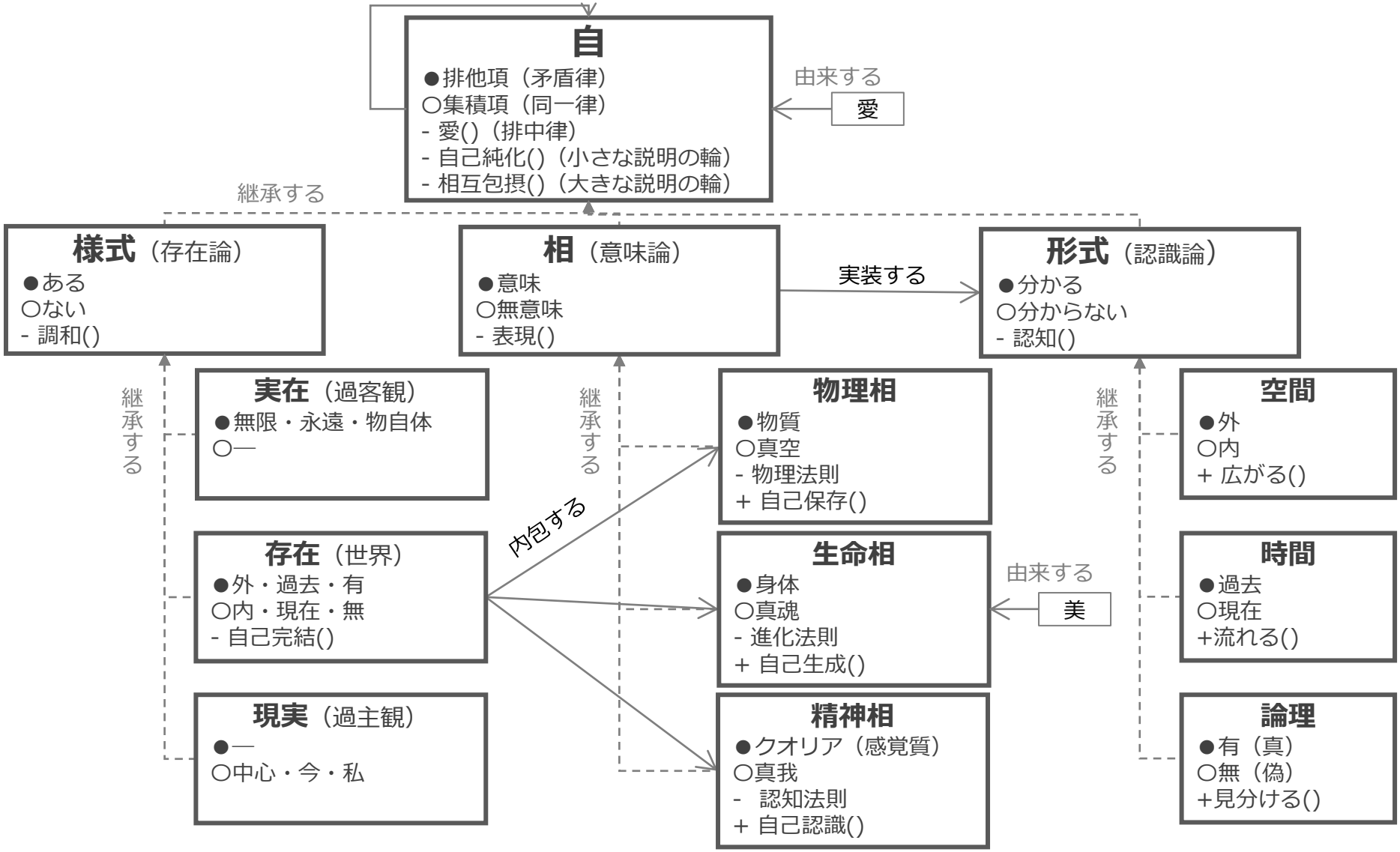
世界とは、空間・時間・論理を実装した
物理相・生命相・精神相を 内包する存在である



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論 *ver. 4.2*

形式 相 様式

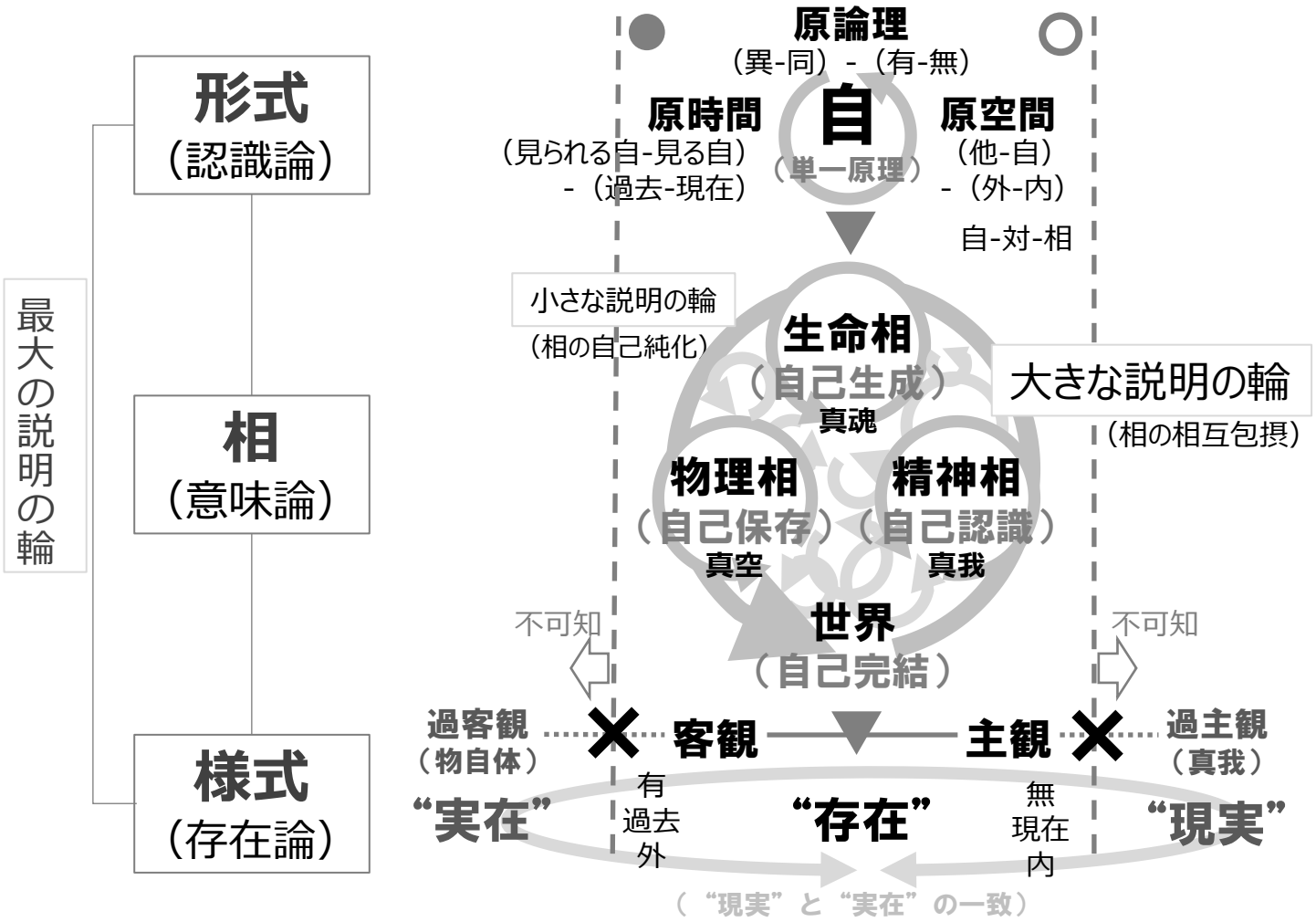


Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論 *ver. 4.2*

形式 相 様式

世界とは 「自」から成り立つ 説明の輪



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

本節のまとめ

- **世界は 形式・相・様式 から成る**
- **全ては「自」から派生している**
  - **形式 ＝ {**時間　、空間　、論理　**}**
  - **相　 ＝ {**物理相、生命相、精神相**}**
  - **様式 ＝ {**実在　、存在　、現実　**}**
- **全ては「自」の内部にある**
  - **世界には外部が無い**（自己完結圏）

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

3. 宇宙

物理宇宙は、なぜこの姿なのか

- 知性原理存在論
- 有限原理
- 哲学的な一致の定理

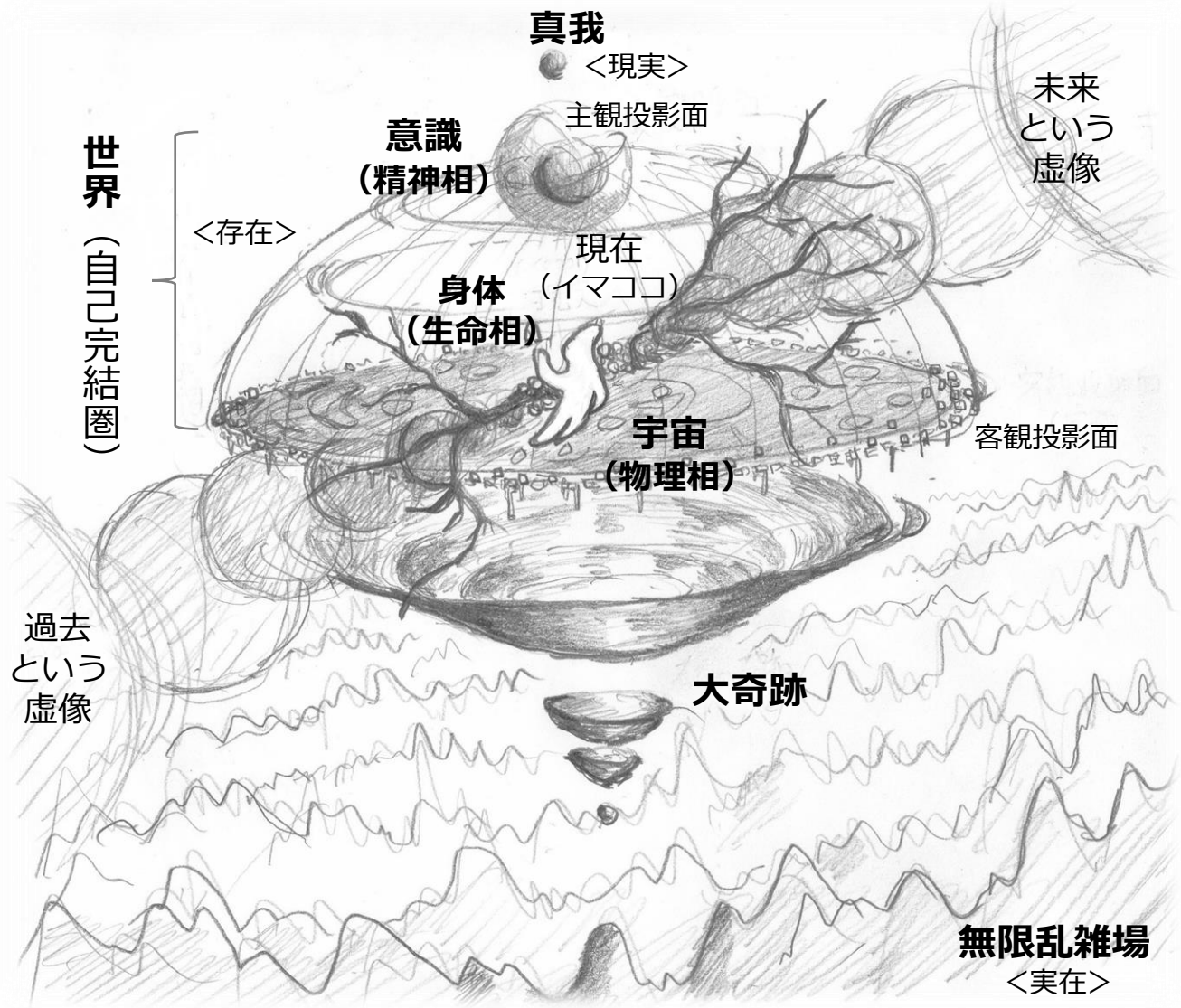
Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

本節で学ぶこと

- 知性と物理法則・物理定数は
  表裏一体であることを学びます
- 知性が有限であるが故に
  宇宙も有限であることを学びます
- 知性にとっての現在が
  過去や未来を決定する原理を学びます

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

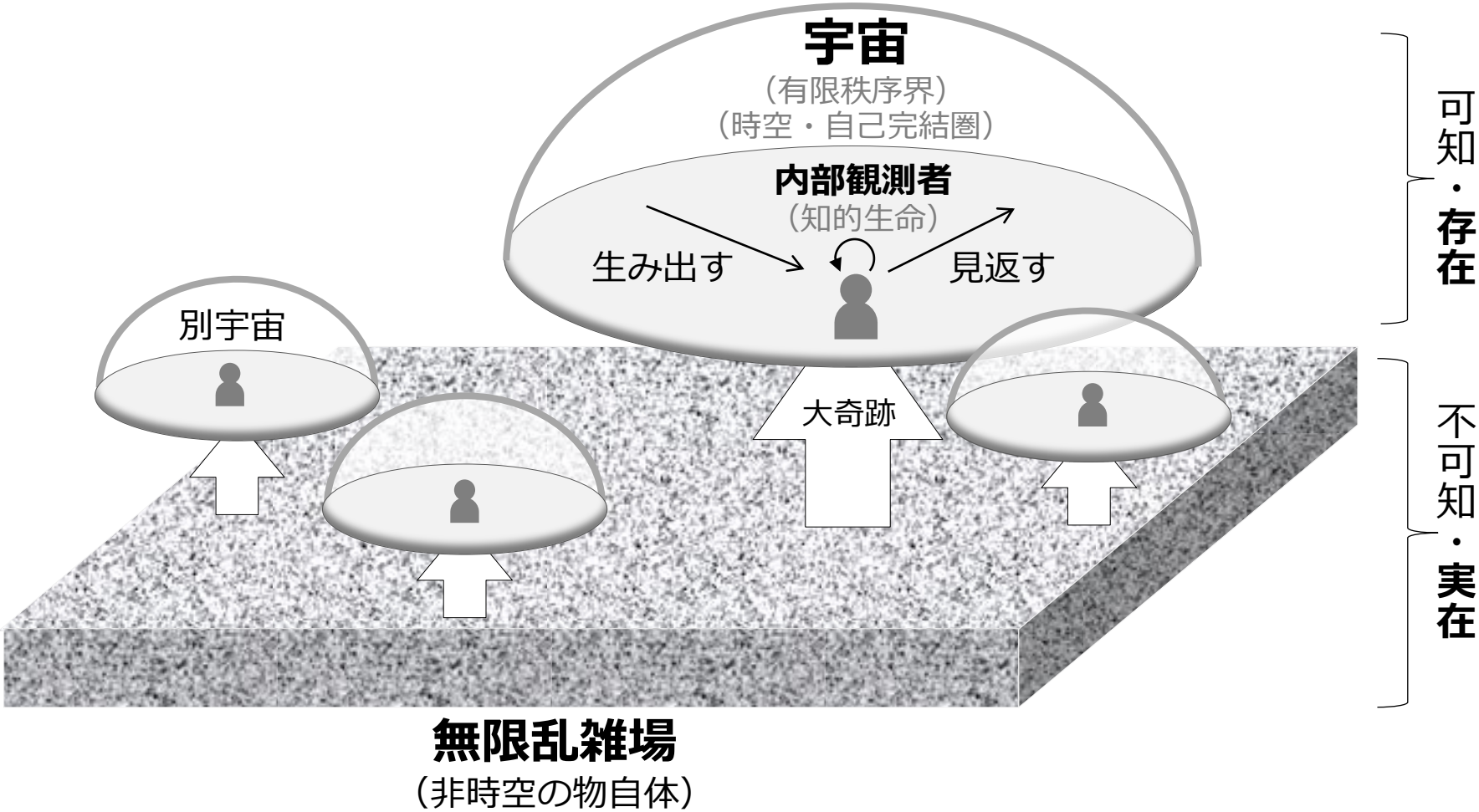
自循論の宇宙観



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

知性原理存在論｜多宇宙

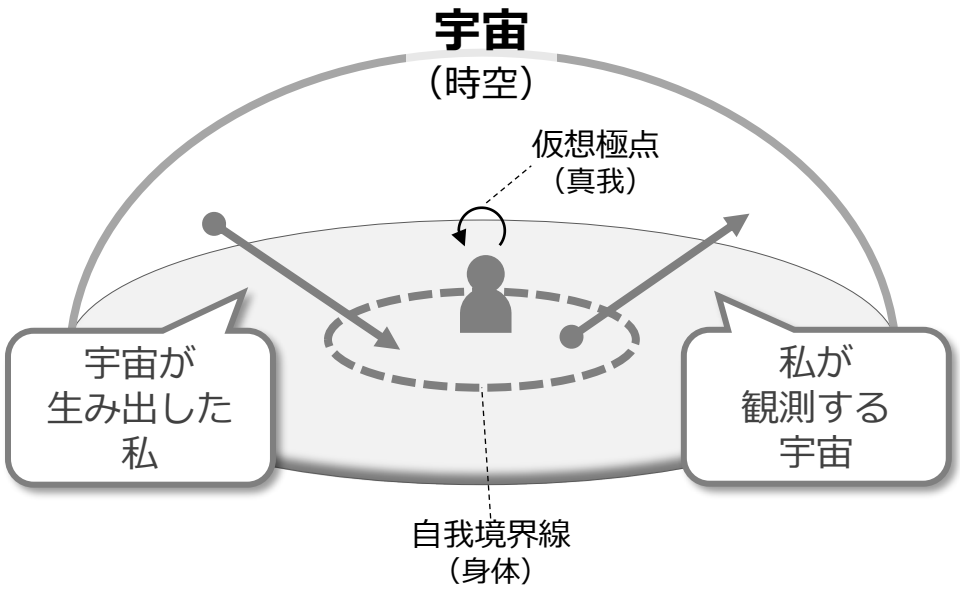
実在の上に 宇宙が無限に存在する



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

知性原理存在論

宇宙が知性を生み、知性が宇宙を定義する



- 意識体（知性体）は
  「私にとっての私」の情報処理
  （**真我計算**）を常時維持する
- 真我は仮想極点であり
  無色透明の「**魂**」
  （世界の中には実在しない無）
- 真我を中心とする情報空間が
  「**意識**」

  - 真我の維持により知的生命は
    「死にたくない」と強く思う
  - 意識により世界に有無が生じ
    世界は時空として理解され
    知性同志が計画を共有できる

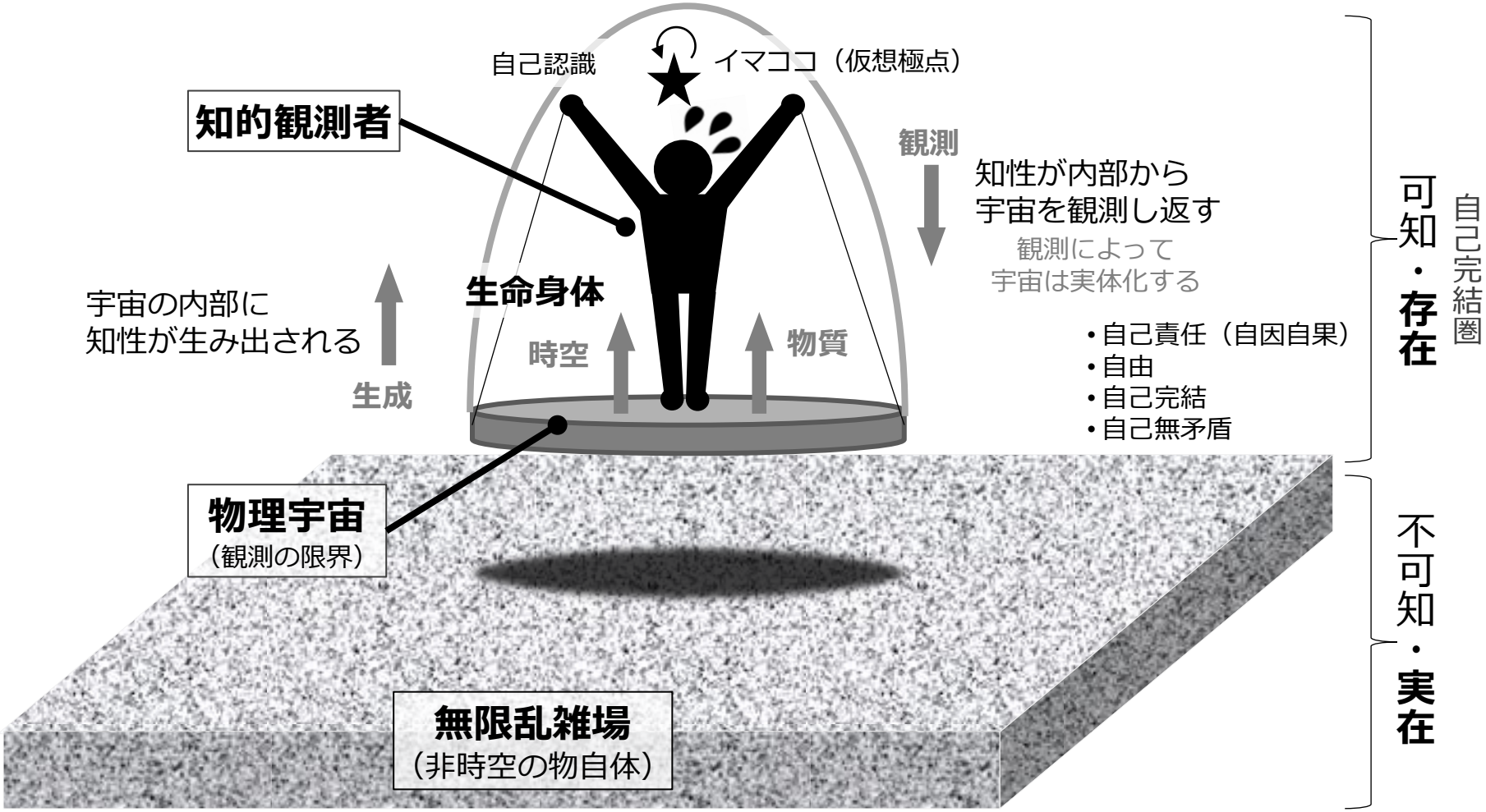
宇宙が意識を生み出し、意識が宇宙を観測し返す

この自己完結圏が「世界」

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

知性原理存在論

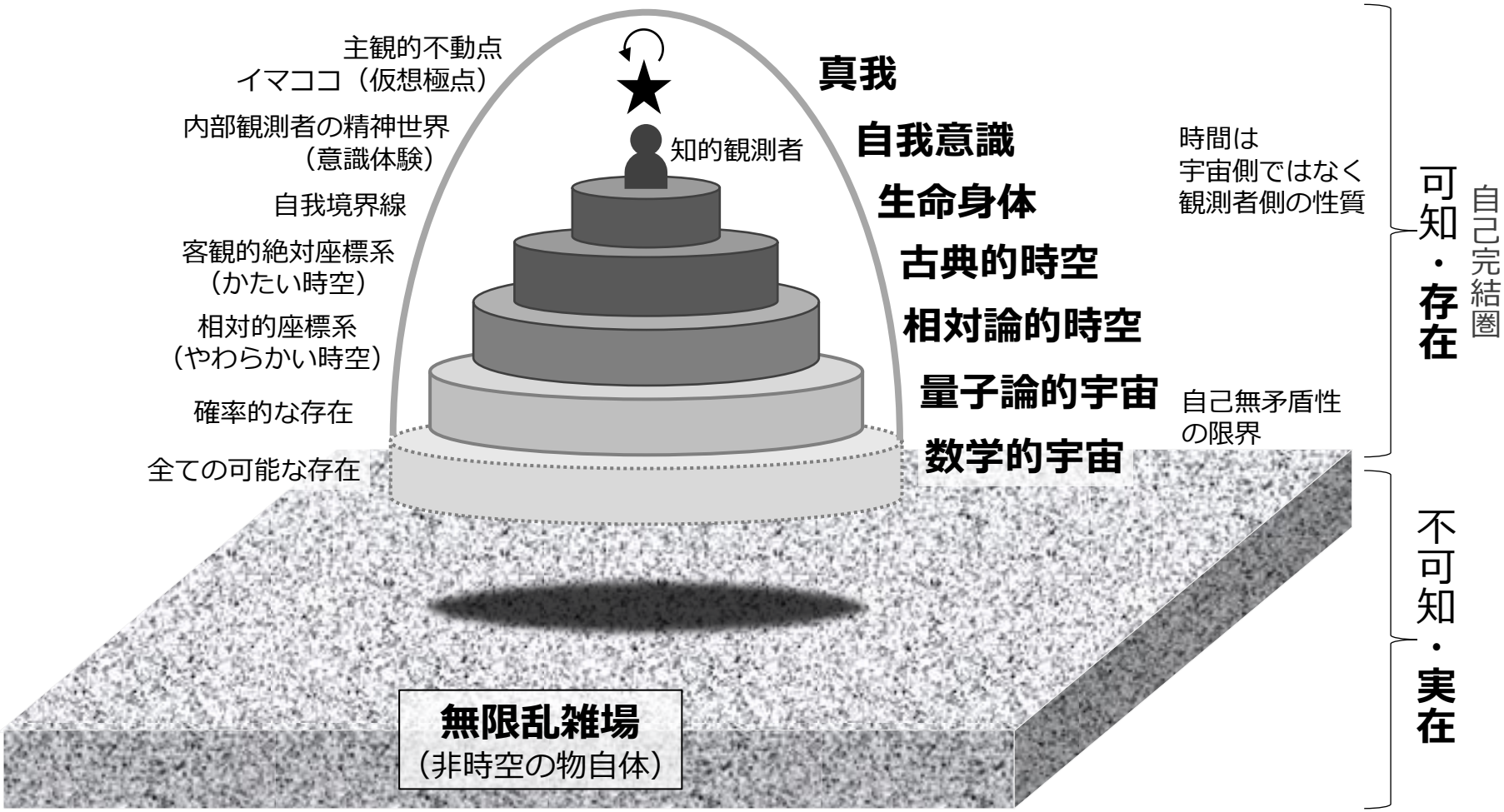
知的観測者が存在を浮上させる



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

知性原理存在論

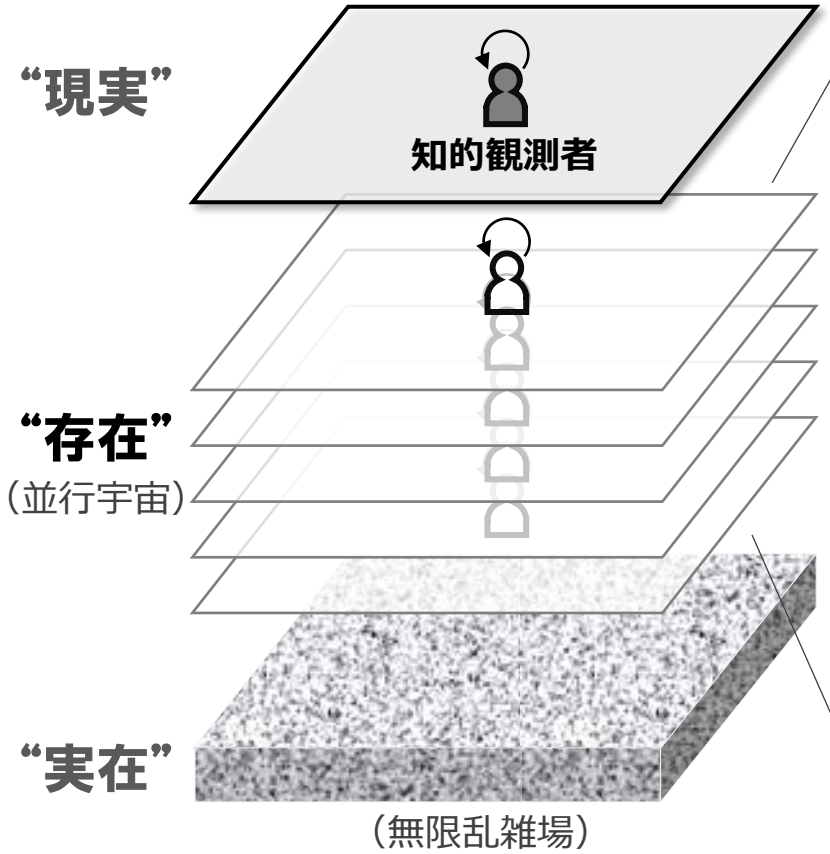
知的観測者が存在を浮上させる



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

知性原理存在論

全並行宇宙は存在し 観測者が現実を選択する

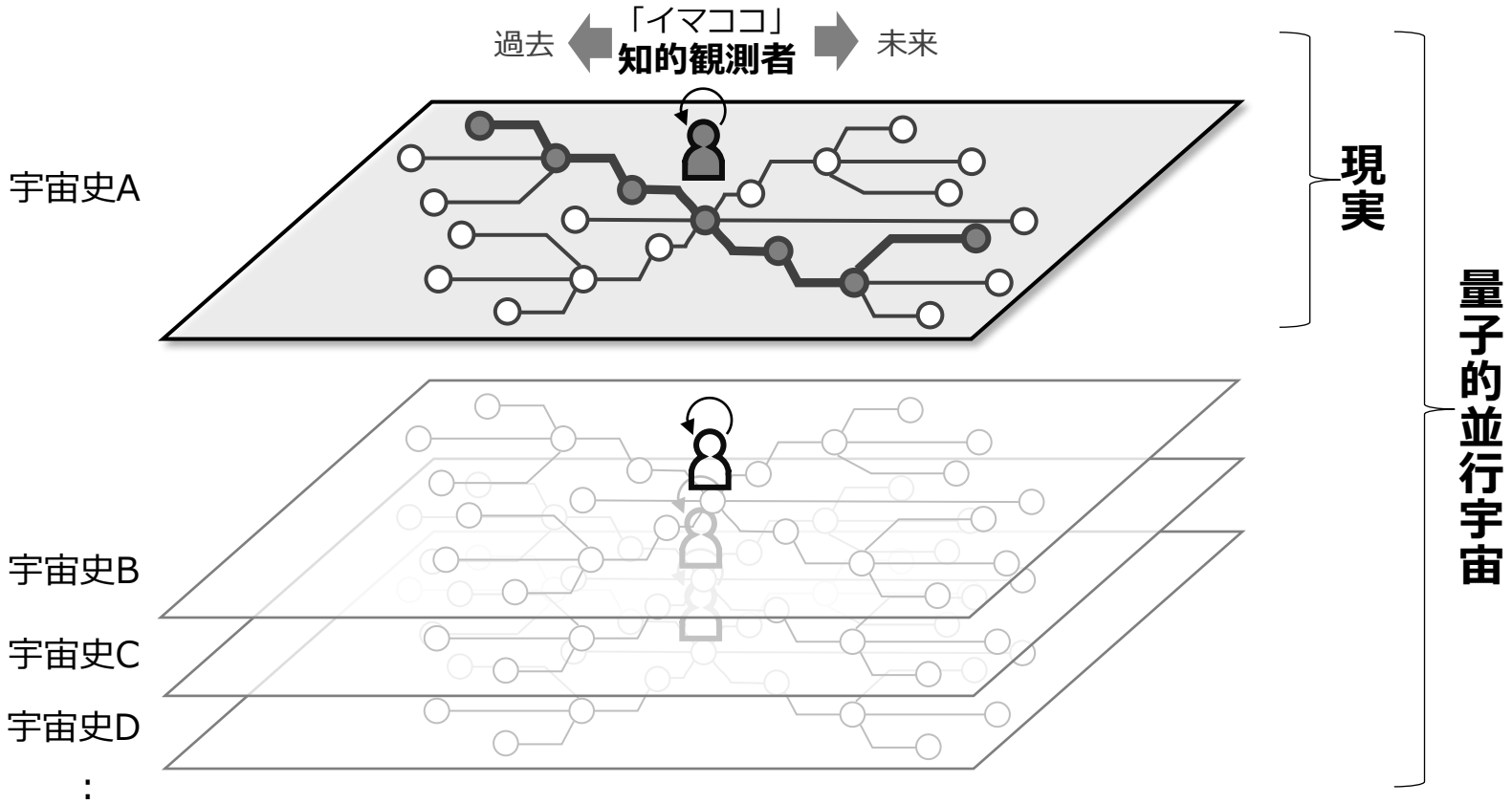


同一 並行宇宙	量子レベルまで全く同じ宇宙。実在（無限乱雑場）の上には、有限の同一並行宇宙は無限子存在するが、知性にとっては区別がつかない（不可識別者同一原理により一つとも言える）
量子的 並行宇宙	少なくとも一度は同じ量子的重ね合わせ状態にあった（同一だった）が、観測（デコヒーレンス）によって異なる状態に枝分かれした宇宙群
物理的 並行宇宙	同じ系列の物理法則を持つ宇宙群。泡宇宙、サイクリック宇宙、上位・下位宇宙、ワームホールで接続された別宇宙、等
数学的 並行宇宙	同じ系列の数学体系を持つ宇宙群。物理的な接点は無いが、抽象的には似た存在
知性原理 並行宇宙	知性を含むという以外の一切の類似も接点もない、物理法則も数学体系も異なる、「存在」という要件だけが共通している宇宙群

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

知性原理存在論

全宇宙史は存在し、観測者が現実を選択する



- 量子的並行宇宙は、全て「**存在**」している
- 観測者が自己認識を行うことで、一つの宇宙史を選択的に「**現実**」にする

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

知性原理存在論

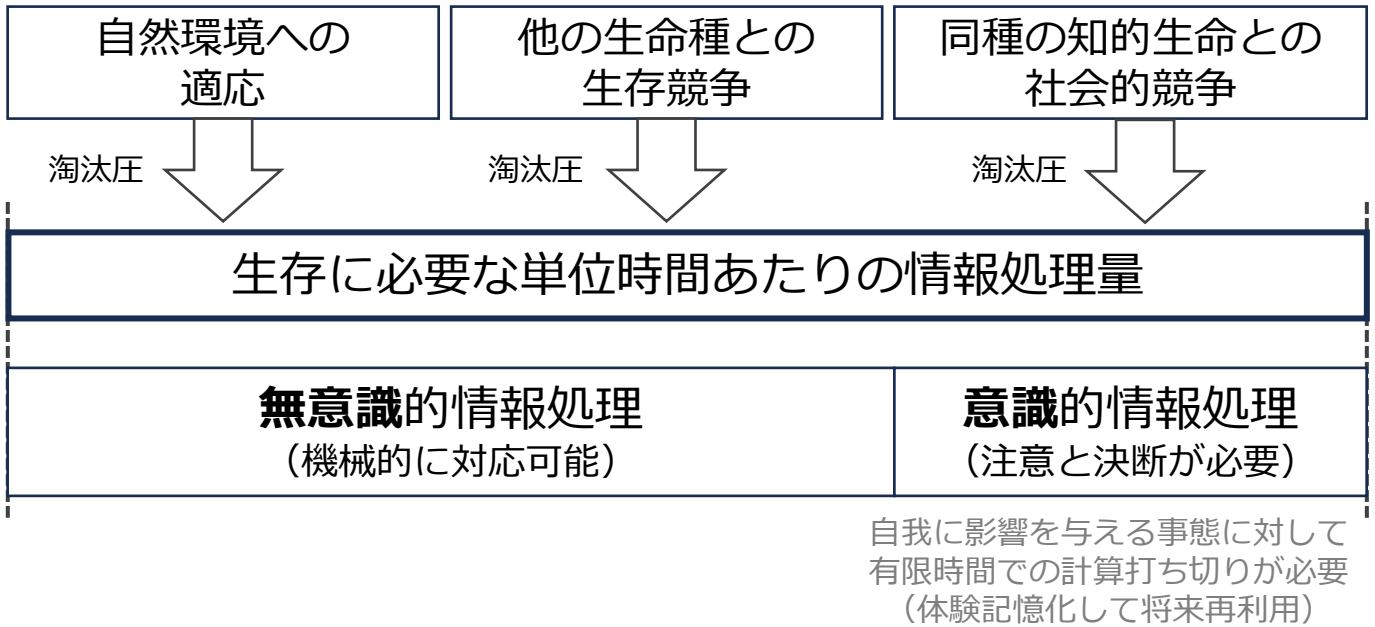
知性の在り方が 物理法則を決定する

- **相対論**
  - 全ての時空点から、光速度（情報伝播速度の上限）が同じに見える（光速度に種類は無い）
  - 誰もが、情報を瞬時に集める神にはなれない
  - 相対論は、全ての観測者の**自己中心性**を保証する
- **量子論**
  - 全ての時空点で、無矛盾な可能状態が重ね合わされ、無矛盾性を保つように可能性の収縮が起きる（波束の崩壊）
  - 誰もが、外部と過去に縛られた運命論的奴隷ではない
  - 量子論は、全ての観測者の**自己決定性**を保証する
- **自循論**（説明の輪）
  - 相対論的・量子論的な宇宙内部でのみ知的存在が育まれるし、知性が観測する宇宙は必然的に相対論的・量子論的である

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

有限原理

意識的情報処理量には 上限がある

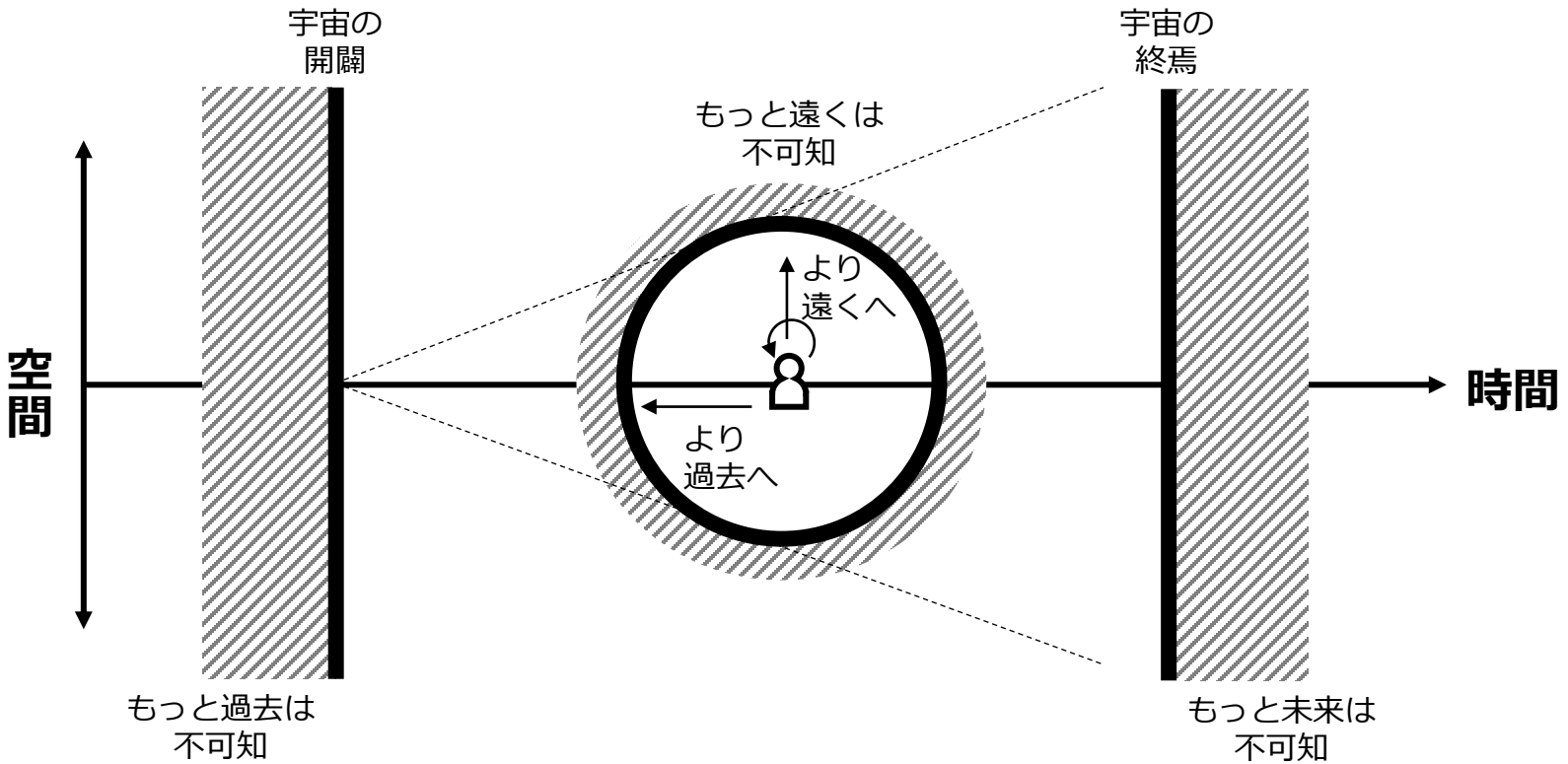


- 意識とは、自我を中核として、いま**注意**すべき情報を統覚する仕組み
- 生存に必要な単位時間あたりの情報処理量のうち、意識的情報処理の割合を増やす最大の淘汰圧は、同種の知的生命との社会的競争
- 機械的に対応可能な範囲が増えれば、意識の必要性は低下する

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

有限原理

知性の能力 と 可観測範囲 は 表裏一体

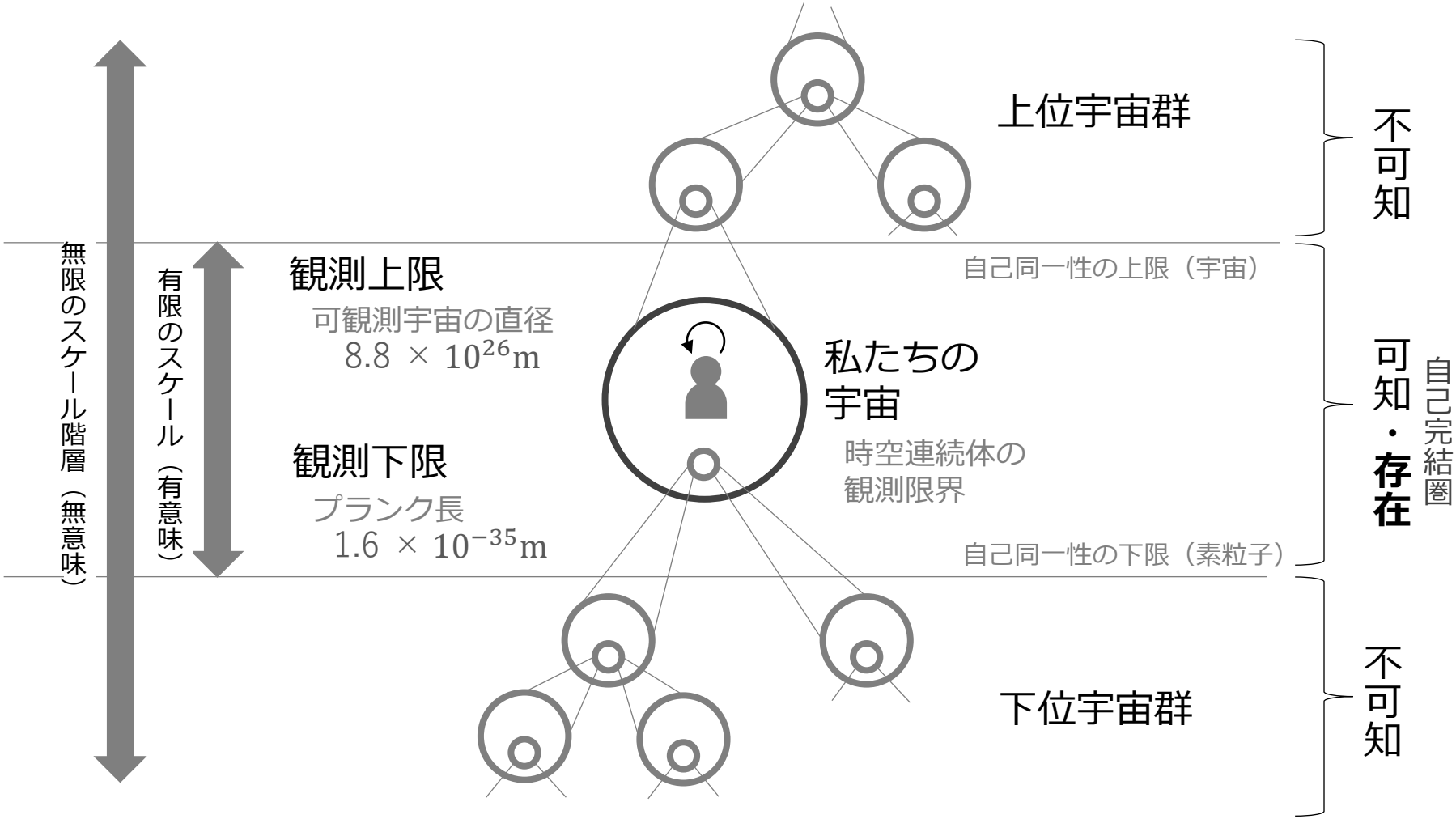


- 宇宙は相対論的であり、「より遠くへ」と「より過去へ」は同義で、どちらにも限界がある
- 特異点から宇宙が「始まった」のではなく、知生体にとっての過去への**推定の限界点**があるだけ
- 知性が知り得る範囲は、時空内に限られ、時空内部にいる知性にとってその範囲は、有限である
- もし知性が**無限**の認識能力を持つなら、自他の区別や時空という分離形式すら成立しなくなる
- **無限**の能力を持つ神のままでは知性に堕して語ることはできないので、神は沈黙する

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

有限原理

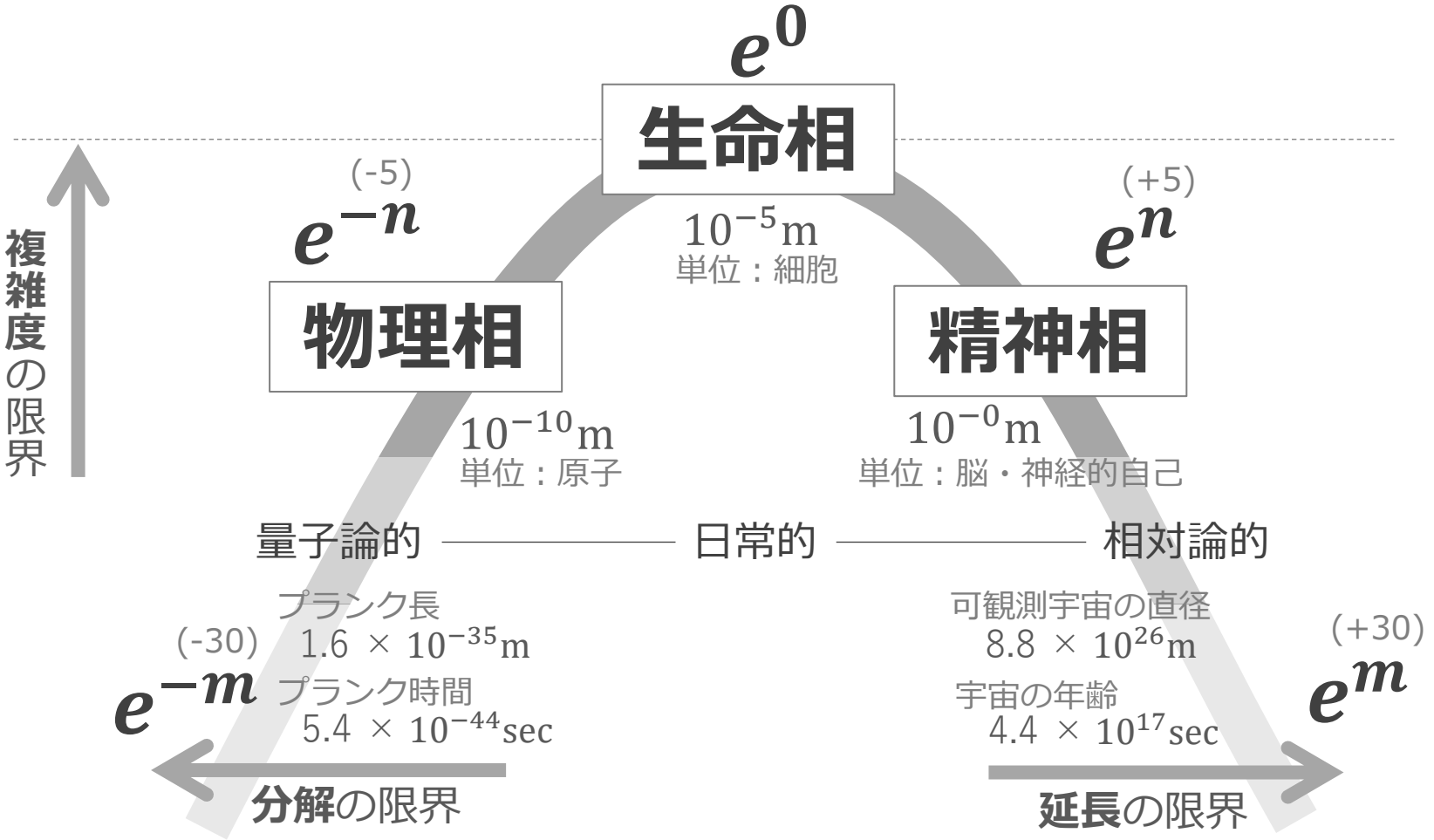
スケールは自己規定的に自己完結している



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

有限原理

スケールは自己規定的に自己完結している

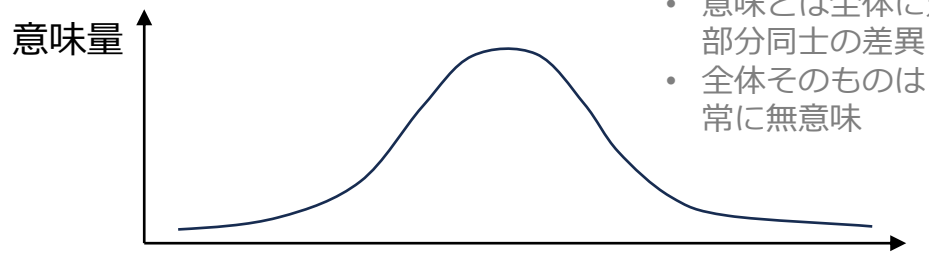


もしも分母が無限なら、あるスケールで何かが存在する意味はゼロになる

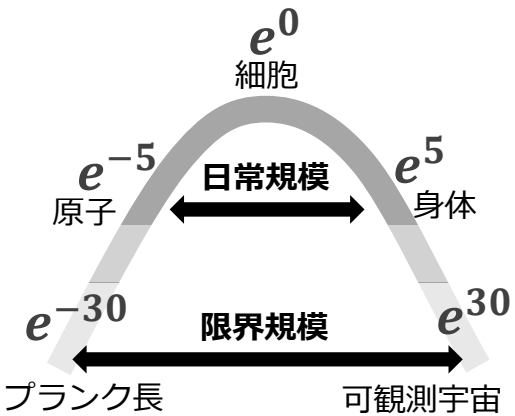
Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

有限原理

意味量は 限界規模 と 日常規模 で決まる



- 意味とは全体に対する部分同士の差異
- 全体そのものは常に無意味



	小さ過ぎる	丁度よい	大き過ぎる
限界規模	世界は単調で つまらない	世界は豊穣な 構造を持てる	世界は乱雑で 荒唐無稽
日常規模	選択肢が 少なすぎる	適度な 選択肢がある	自由過ぎて 選択できない
日常規模÷限界規模	未知が多過ぎて 途方に暮れる	適度な 好奇心を持てる	既知が多過ぎて 探求の余地が無い

私たちの宇宙は、完璧ではないが、最良である

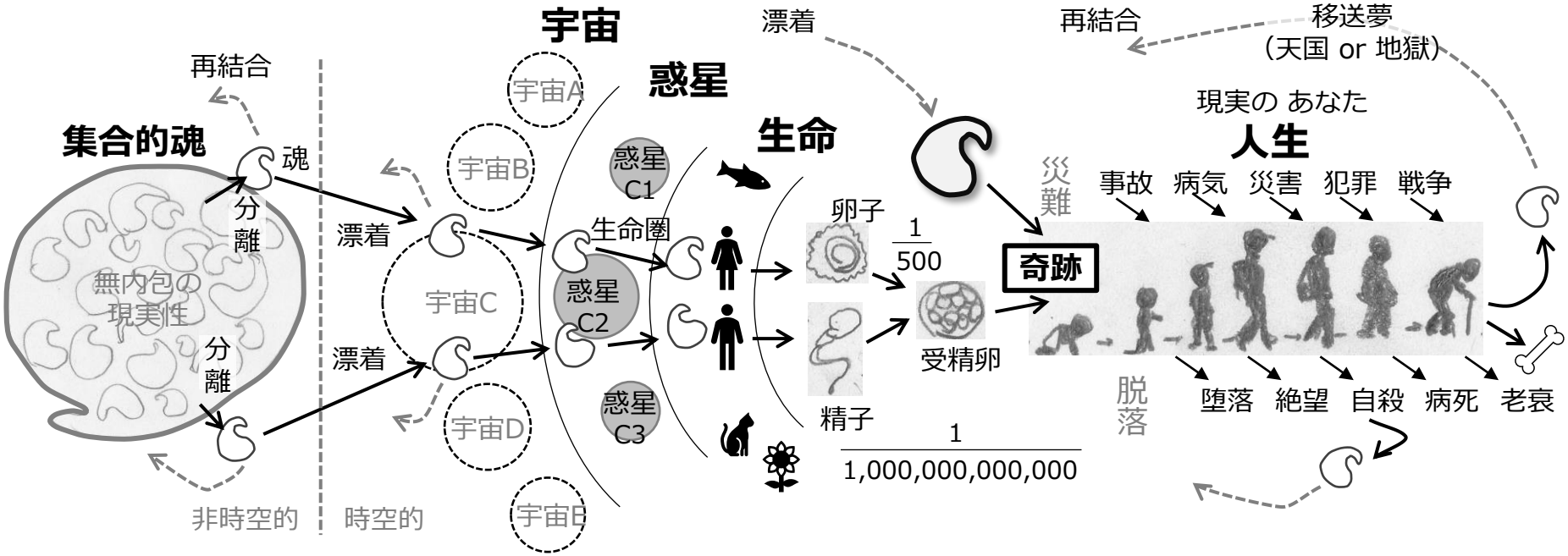
意味最大化 60:10の法則
- 限界規模10^60内で 日常規模10^10の時、意味量が最大になるという仮説
- これが、多宇宙の全てに当てはまる、より普遍的な原理から導出できる数値なら
  私たちの宇宙は理想的であり、私たちは地球人類に生まれて幸運だったと証明できる

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

有限原理

魂は、最良の人生に宿る確率が 高い

（意識的情報処理が最大の知的存在）



- 無限乱雑場をランダムに漂流する「魂」は、巨大で濃厚で燦然と輝く人生経験に絡め取られる可能性が高い。
  矮小で希薄で暗い存在に取り込まれる可能性は極めて低い（当てずっぽうの矢が蚊を射抜くようなもの）。
- あなたが、あなたの肉体から現に世界を見ているのは、「魂」（無内包の現実性）が「あなた」に宿ったからで、
  それは、あなたが（肉体は小さくても精神として）巨大で濃厚で燦然と輝いている証拠である。
- あなたの肉体は、物理宇宙内では小さくても、あなたの精神は、精神世界では巨大である。
  「もっと良い人生を生きたい」と思うかも知れないが、それは誤差の範囲。あなたは既に、最良だ。

あなたは、完璧ではないが、最良である

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

有限原理

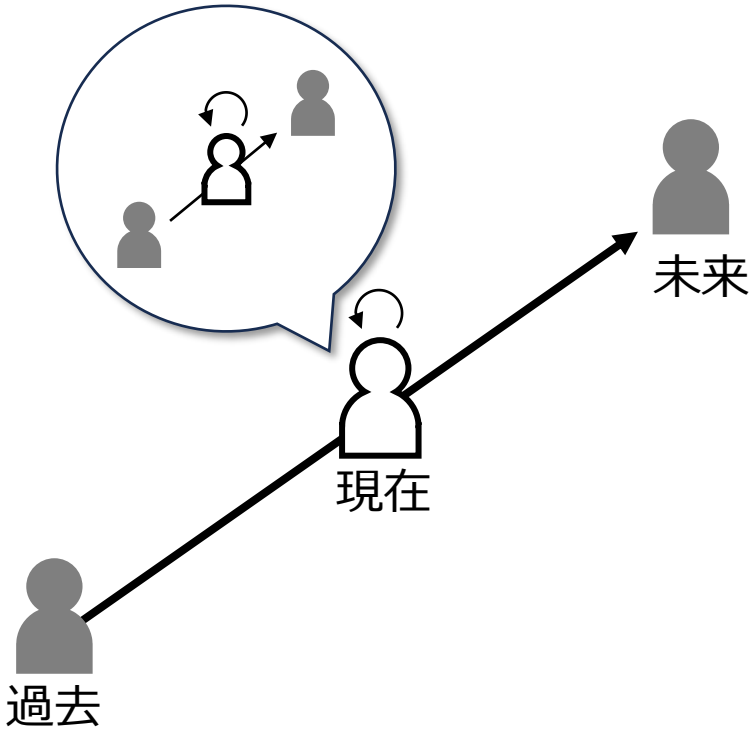
計算の停止には 意識と量子が必要

- **意識計算**の無意識計算に対する優位性 - Conscious Supremacy
  - 生物学的に意味のある時間スケールで
    行動を決断するまでの思案を終えるためには
    意識による計算の打ち切りが必要
  - 切迫度に応じて総合的に判断し（飽和して余力を失い）
    考えるのをやめて行動に出る能力＝**意識優位性**
- **量子計算**の古典計算に対する優位性 - Quantum Supremacy
  - 生物学的に意味のある時間スケールで
    意識に関与できる巨視的な計算結果を出すには
    量子的な仕組み（波束の収縮）が必要
  - 非局所的に広がった可能性（確率波）が（デコヒーレントし）
    一気に局所的な実体に結実する能力＝**量子優位性**
- **意識計算と量子計算の優位性の比較**
  - 精神相：意識計算の打ち切り効果（思案から行動へ）
    物理相：量子計算の波束の収縮（可能性から現実へ）
    生命相：生命活動の持続（現実の行動）
  - 各相はお互いを説明する（どれかが根源的ということではない）

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

哲学的な一致の定理

過去と未来は この一瞬に畳み込まれている



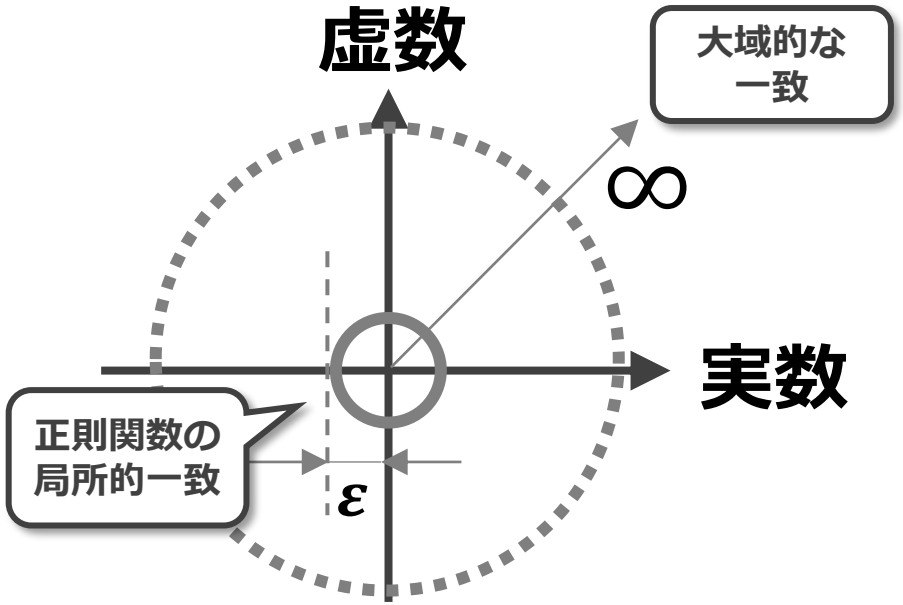
正則な（世界との断絶や、自分の中に疚しさや無理のない、滑らかな）
生き方をしているならば、過去から未来の全ては、現在の中にあり
今の生き方の中に、既に実現している

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

哲学的な一致の定理

過去と未来の全ては この一瞬と等価

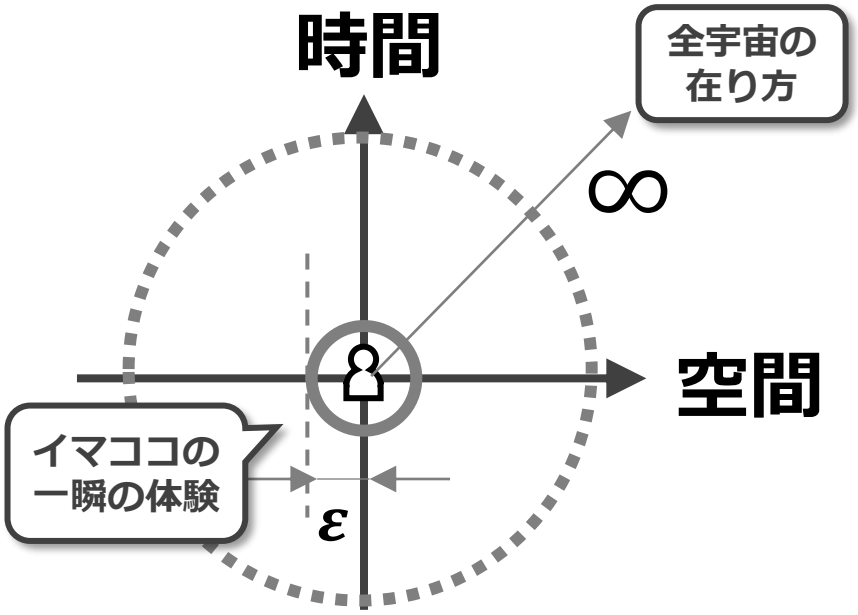
（数学の）一致の定理



（複素数空間）

無限小領域の在り方によって
空間全体の関数が一意に決まる

哲学的な一致の定理



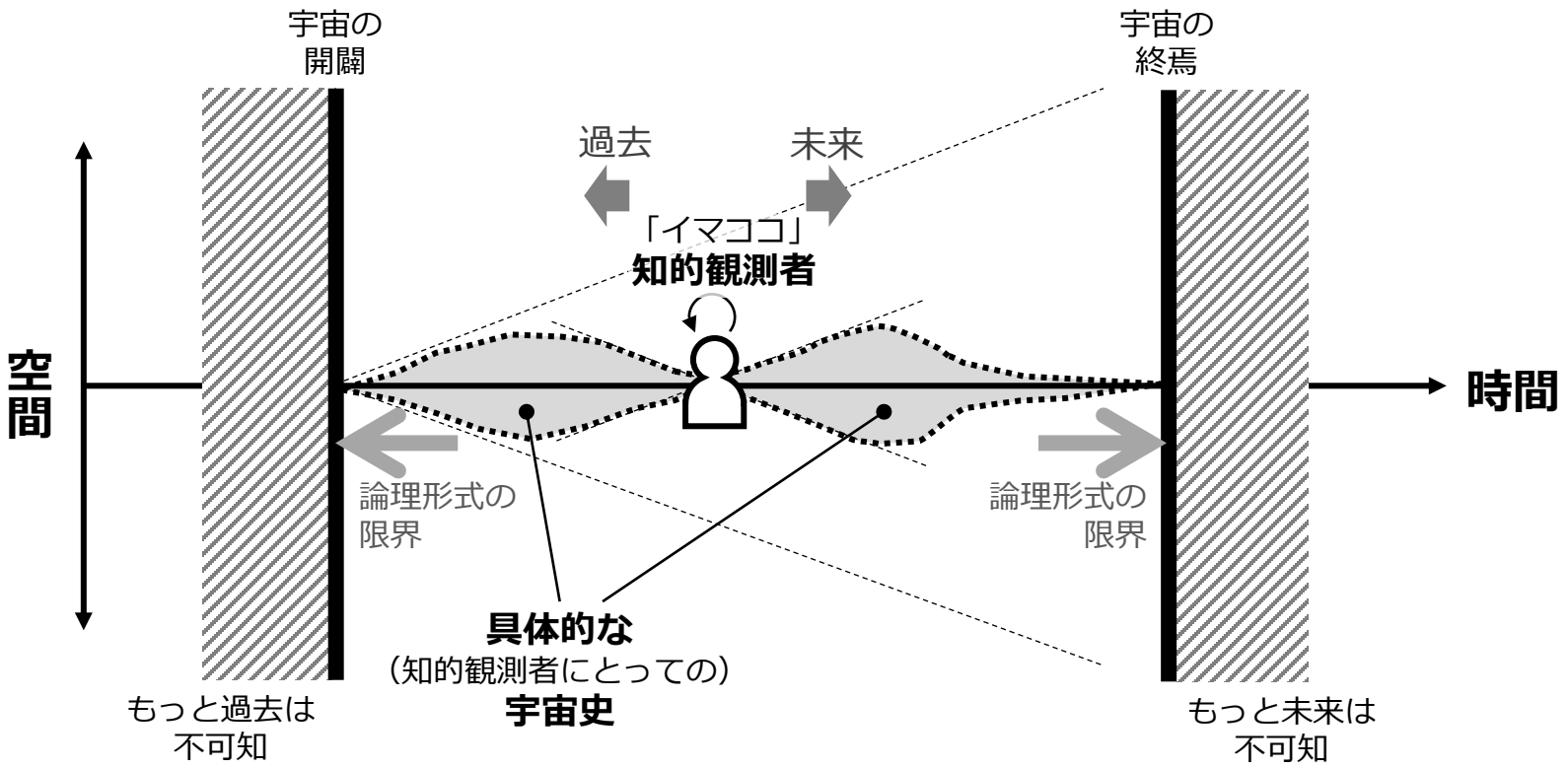
（ミンコフスキー空間）

私のイマココの在り方によって
宇宙史全部が一意に決まる

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

哲学的な一致の定理

過去と未来は 現在が支配する



- 物理法則に従う正則（滑らか）な範囲において、
  私のイマココの状態が、私にとっての全宇宙史を決定する
- 過去が変えられない程度には未来も変えられず、
  未来を変えられる程度には過去も変えられる

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

哲学的な一致の定理

究極的には プロセスとゴールは 一体

- 過去-現在-未来 と
  わたし-あなた-みんな との間で
  嘘や無理や断絶の無い **滑らかな世界**では
  未来の理想も 日々の仕事や暮らしに 浸潤している
- 刹那主義・利己主義・嘘・疚しさに満ちた
  歪んだ **滑らかでない世界**では
  未来の理想と 日々の仕事や暮らしが 断絶される
- **滑らかな世界**では、**ゴールとプロセスの区別は消失**する
  ＊ビジネスにおいては「三方よし」で商売する
  ＊生活においては「生きていることへの感謝」で生きる

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

本節のまとめ

- **宇宙**とは、至るところ「**自**」が成り立つ論理形式を敷き詰めた時空場である
- 相対論や量子論の論理形式は「**自**」を実現するための必然である
- **個々の宇宙**は**自己完結**している
  - 可知な宇宙の全ては**有限**である
  - 可知な宇宙の全ては**現在が支配**する
- 全宇宙を支える**実在**は**不可知**である

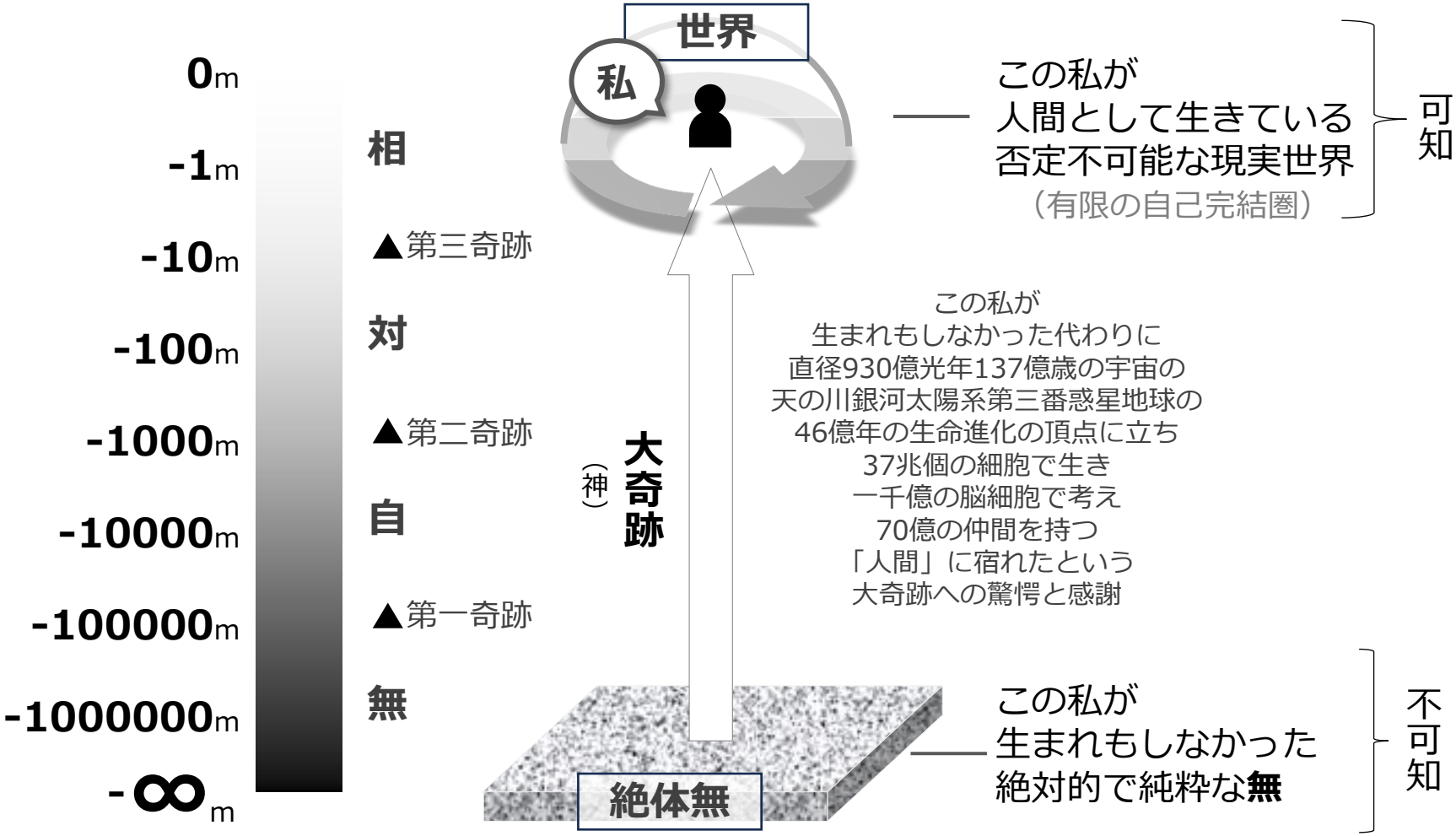
Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

まとめ

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

人生の目的

絶対無から私までの標高に 驚愕し感謝する



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論

私とは何だろうか？
と問える、どの瞬間にも
「自」という大奇跡が
既に宿っている

絶対無から浮上し 自己認識している大奇跡に
驚愕し感謝する喜びは、誰にも奪えない
これが「**絶対の幸福**」

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

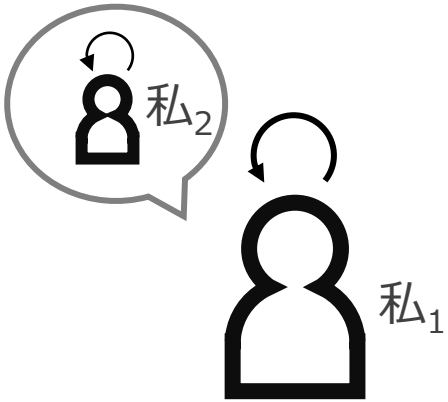
参考資料・１
自循論と日常概念

知性・自由意志
愛・生命・美
感謝・価値
善・神・悟り

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

知性

知性とは、自覚していることを自覚する能力



「**知能**」には、知識・推論能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などが含まれるが、これらは人工知能であっても人間以上に持ち得る能力である。一方「**知性**」は、これらに加えて、自己認識能力を持ち、再帰的に自己認識能力があることを自己認識する能力を指す。これは、一般的な人工知能が持っていない能力である。

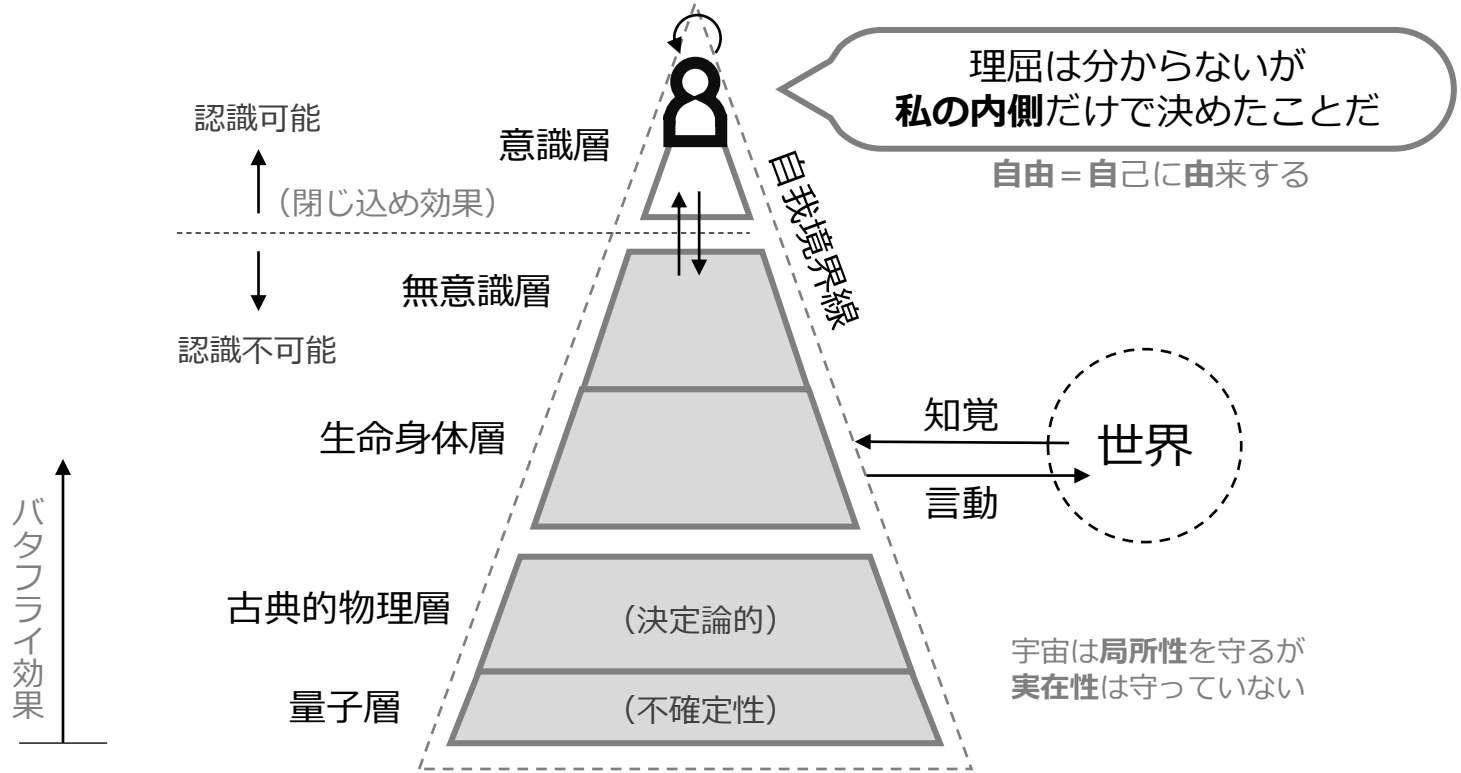
宇宙の物理定数は知的生命を生むために余りにも都合の良い値に微調整されているように見える。しかし、これは偶然ではなく、知的存在という「自覚していることを自覚する能力を持つ存在者」が理解する環世界は、自身の能力と論理的に無矛盾であるようにしか理解できないが故の必然的な帰結である。「存在」という形式もまた、知性の必然である。これを（人間原理宇宙論を一般化した）「**知性原理存在論**」と呼ぶ。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自由意志

無 自 対 相

自己の言動が 内発性だとする信念



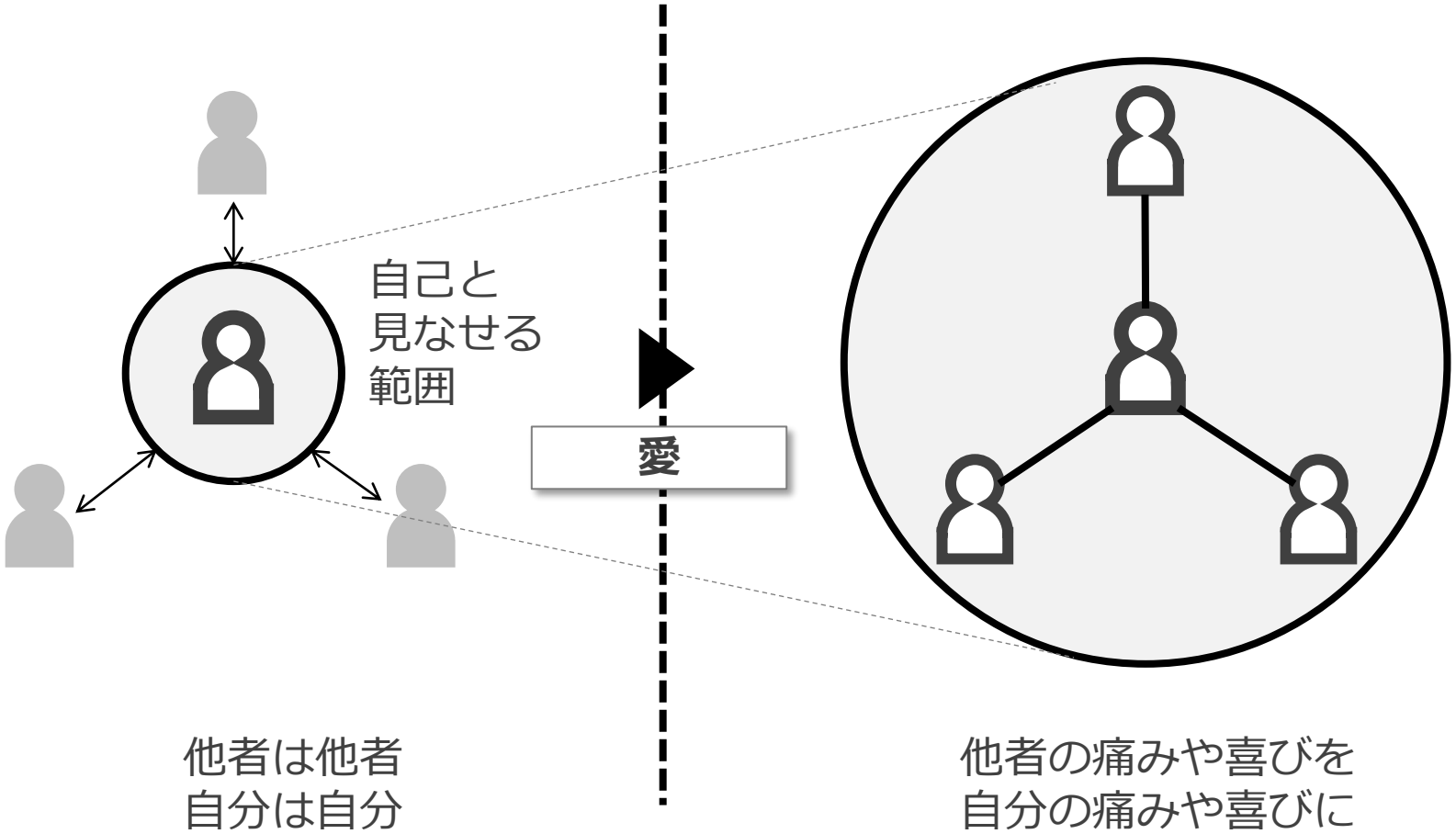
- 私たちは物理法則の奴隷で自由意志など無いと考えるのは二重に誤りだ。第一に物理法則の本質的不確定性とバタフライ効果から物理は未来を完全には決定しない。第二に自由とは言動の原因を隅々まで制御するという意味ではなく、原因が自我境界線の**内側**にあるとする信念である。意識は無意識層以下の認識が不可能なので、この信念が揺らぐ心配も無い。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

愛

無 自 対 相

自己と見なせる範囲を 拡大したいと願う感情

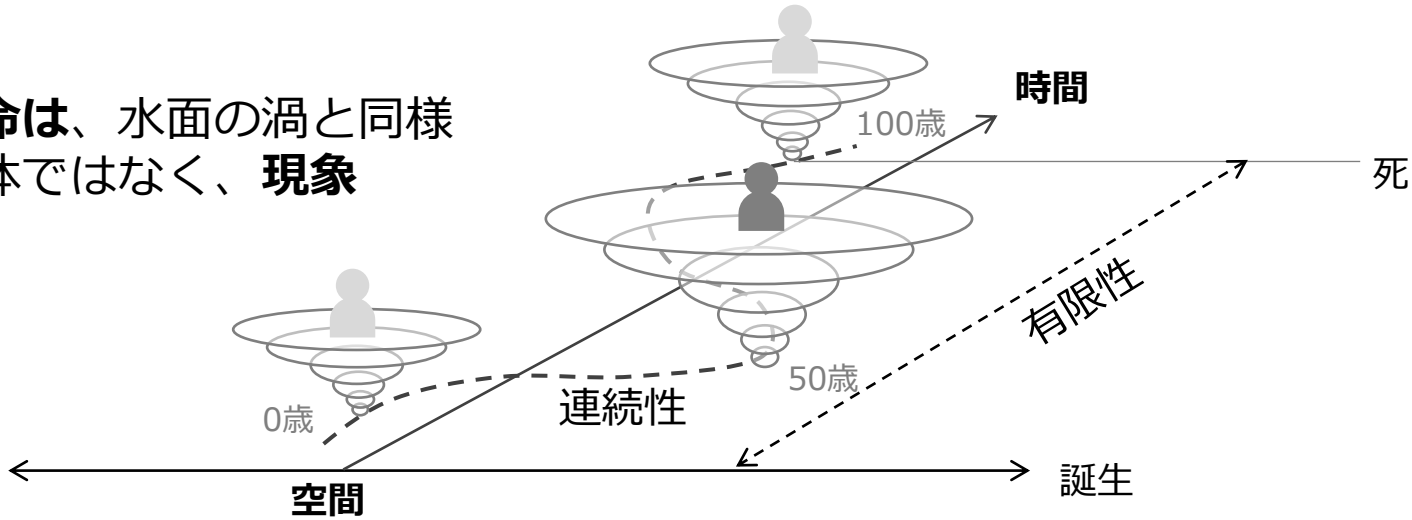


Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

生命

変化しつつ自己を維持する連続的現象

生命は、水面の渦と同様
実体ではなく、**現象**



「**身体**」は毎瞬**変化**

- 血液細胞は一秒間に数百万個、生まれ死ぬ
- 脳細胞は毎日数十万個死滅する
- 身体を構成する物質は数年で全て入れ替わる

「**自己**」は**不変**概念

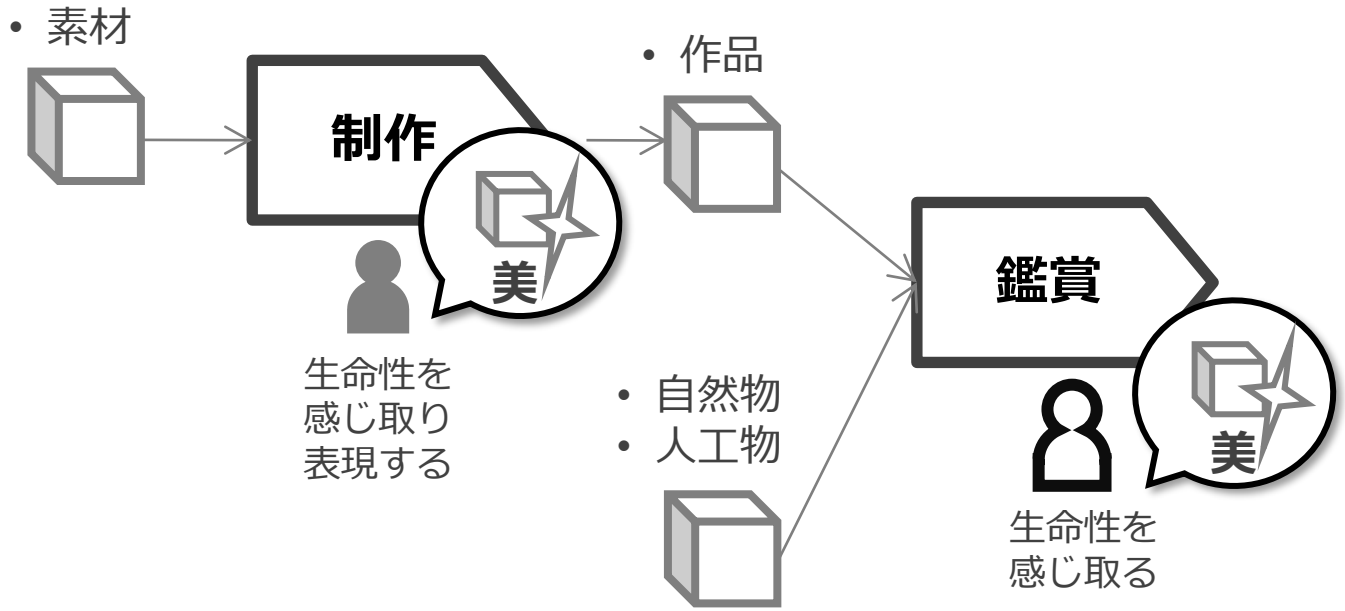
- 「自己」とは渦の中心の軌跡（世界線）
- 「自己」は世界の内部には含まれない
- 渦は徐々に生まれ、徐々に消える

「知性」は「自覚していることを自覚する能力」であり
「生命」は「自己を連続的に維持する現象」である。
この抽象的な定義下では、「生命」は「知性」の前段階として要請され、
「生命」という存在が始まった奇跡も「知性原理存在論」に吸収される。
（「知性原理存在論」＝「人間原理宇宙論」＝「**知性原理生命論**」）

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

美

美とは、生命性を感じ取ること



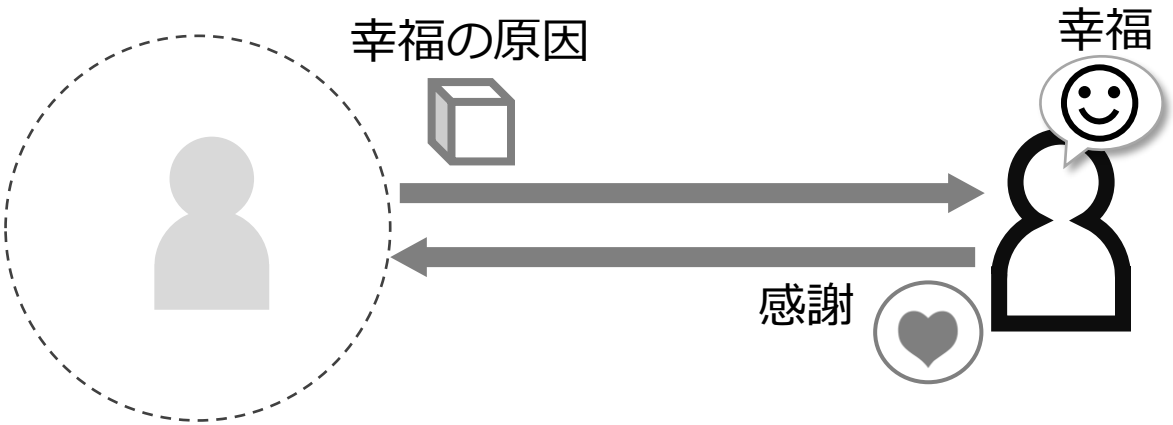
- 生命の躍動は、それ自身が既に美しい
- 自然現象や、無機的な幾何学模様も、鑑賞者が**生命性を感じ取る**時には、美が生じる

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

感謝

無 自 対 相

幸福の原因を 自分以外に帰着させること



感謝とは、自分が受け取った**幸福の原因**を
自分以外に帰着させることで
自分の心や責任を軽くし、心身を元気にさせる反応

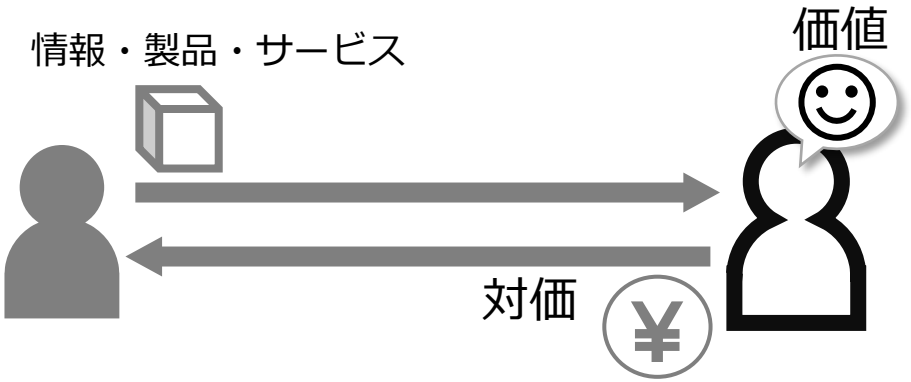
- 例：食べ物・親切・製品・サービスで幸福になった時、それらを生み出したプロセス（自分には見えない努力や仕組み）に思いを馳せ、その不可視な過程が幸福の原因と考える
- 原因・理由が分からないままだと不安になるので、感謝という感情で包み込んで原因とする
- 世界の成立という究極の不可知に感謝できるなら、その幸福は生きている限り揺らがない
- 感謝の心を忘れ、幸福の原因を自分の才能や努力のみに帰着させた瞬間から、成長は止まる

あなたは、一度も生まれなかったことだって有り得た。いや、その可能性のほうが無限倍高かった。
でも現実に生まれて生きている。それを自己認識できる人間として日々生きている。まずは、その大奇跡に、感謝しよう。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

価値

生への驚愕と感謝を感じること



生への驚愕と感謝

- あっ、美味しい
- おぉ、便利
- 楽しい、気持ちいい
- 面白い、感動した
- わかった、なるほど、やってみよう

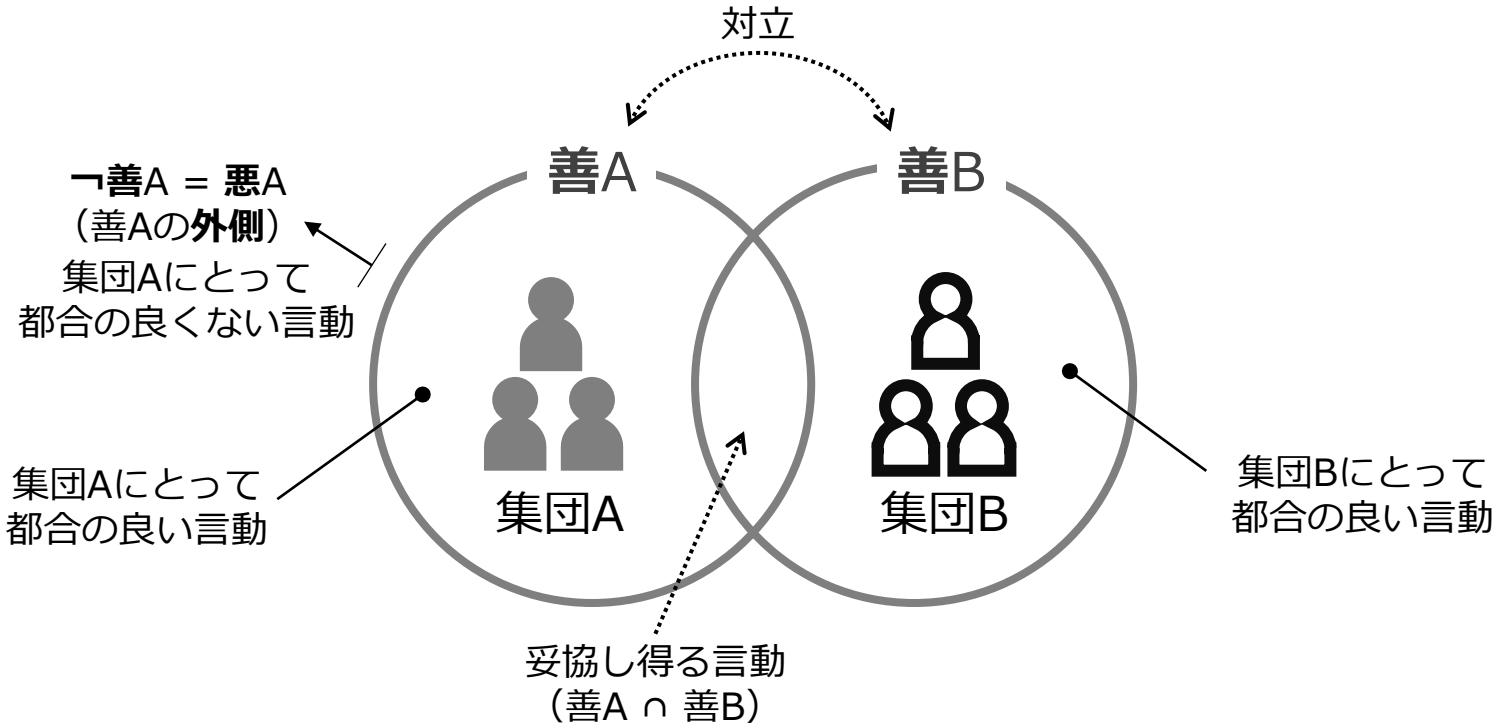
価値は、奪い合いではない
生きている**人間全員が、無尽蔵に持っている**

ワタシを喜ばせても、生じる価値は高々ワタシ一人分
ミンナを喜ばせるなら、生じる価値は何億人分にもなり得る

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

善

善とは、特定の集団にとっての都合の良さ

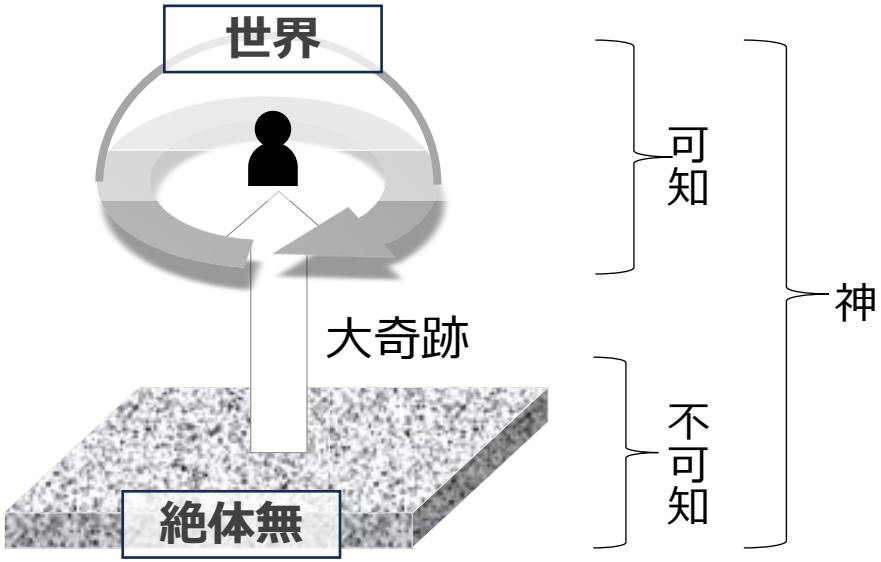


- 道徳とは、あらゆる言動Ω を、善を開集合族として構造化した位相空間である。
- あらゆる言動Ω は無限集合であり、善（開集合）でもあり悪（閉集合）でもある。
- 悪は、善の補集合（閉集合）である。悪は法律等により明確な境界をもって定義される。一方、善に対して明確な定義や境界を設定するのは難しく、それゆえ多様で柔軟でもある。
- 有限個の善でカバーできる善はコンパクトであり、比較的具体的に定義し得る。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

神

不可知から可知を生んだ仕組み



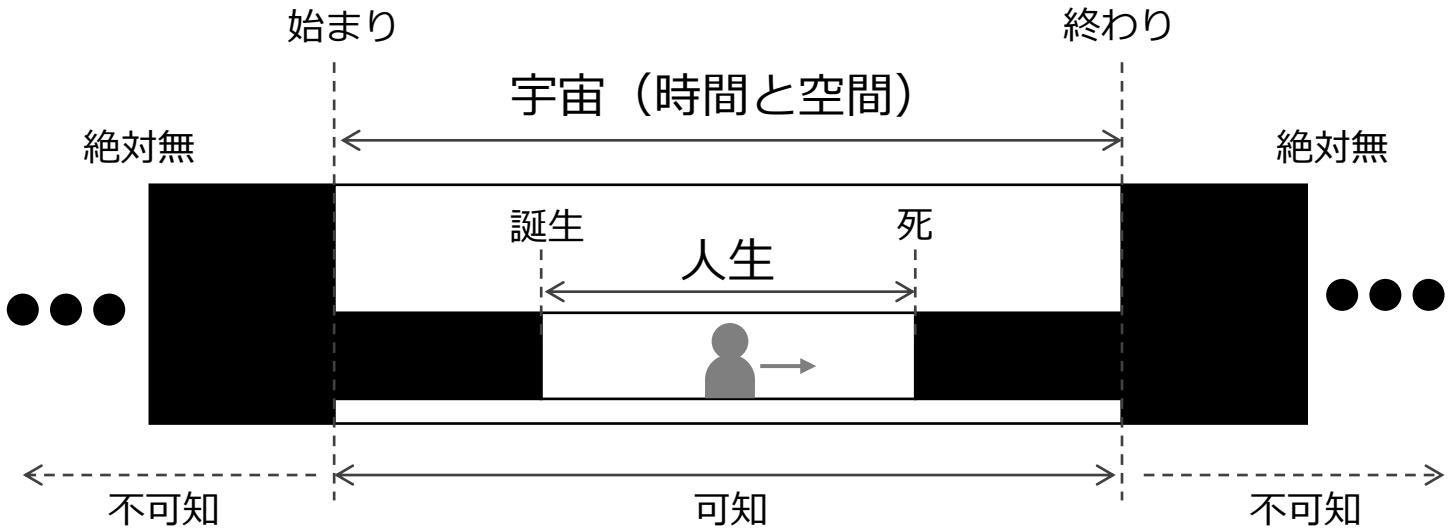
説明し得る限りのことを全て説明し終えた後にこそ
この全てが、なぜ存在しない代わりに存在しているのかが
定義上、説明不可能な謎として残る
この状況を生み出した仕組みを「神」と呼ぶ

- 人間の願いを叶えたり、人間に罰を与えたり、宇宙を創造したり、宇宙をシミュレートしたりするような、人間に理解できるような「神」は、審級の低い神。
- 不可知から可知を生み出す仕組みとしての「神」が、最高審級の神。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

死

いつか必ず、未来永劫、無になること



- 死の恐怖は、痛みや苦しみのような感覚的なもの以上に、
  「私」が、いつか必ず、未来永劫、無になることへの「不可知性」に基づく
- 既に存在してしまっている「私」からは、死後の無をどんなに想像しようとも、
  私の不在という**相対無**にしかならず、「私」自体が消滅するという事態は
  「私」からは想像できない（不可知である）
- 「私」自体が無い**絶対無**は、そのまま宇宙自体が無い絶対無に繋がる。
  絶対無は、想像を絶する無限の質量を持った無であり、これが死の恐怖の質量でもある
- 死ぬ「その日」は、いつか必ずやってくる。その確実性は、世界内の何よりも高い

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

悟り

無 自 対 相

人生のゴールとプロセスの同一性を知ること

1. 流されるがままの人生

- 言われるがままに**流されて生きる**
- 自分の人生を自分で操舵できていない

2. 当面の目標を次々と追う

- やりがいのある**当面の目標**を見つけては達成する
- より高い目標を目指し続け、現状に常に不満を抱える

3. 人生の目的を見つける

- 人生の全部をかけて**目指すべき目的・理想**を見つける
- 脇目も振らず全力で一つの物事に全力を尽くす

4. 人生に目的は無いと悟る

- どのような目的や理想も、**儚く仮初め**のものだと悟る
- 人とは結局のところ生まれて死ぬだけの存在だと悟る

5. 生きる過程が目的だと悟る

- 人生の目的を未来や来世に求める間違いに気づく
- 人として生きる今**この瞬間が即ち目的**だと悟る
- ゴールとプロセスの対立が消え、プロセスがゴールになる

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

用語集（1/3）

用語	自循論での意味
私	素朴な日常生活で感じる、特に現在感じている自分のこと。過去・現在・未来の自分は、同じ「私」であると感じられる。
自分	一般に、ある人が、ある時刻において、その人自身を指す概念。
自	内容を持たない循環。意識・生命・論理に限らない抽象的な概念で、それ自身の内部で運動や説明の循環が起きていて、自己完結している単位。
自循	「自」の循環的側面。「自循論」という名前にのみ使われる。 （※「自論」だと「自分の意見」という意味になってしまうため。）
自我	意識される自分の領域。他者の領域との対比で「自我・他我」という言葉を使う。（例）自我境界線
自己	意識や行為の主体が対象としている先が、その主体そのものである時に、自己という言葉を使う。（例）自己完結
我	自循論では基本的に使わない。「我思う、故に我あり」のような確かな実感としての自己を表すためには、「私」という言葉を使う。
真我	「私」の中核にあって、一切の内容を持たず、時間を経ても変わらない、全ての知性体に共通する、唯一の仮想極点。（例）真我計算

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

用語集（2/3）

用語	自循論での意味
世界	知性が直接的・間接的に知り得る情報の全て。客観的な存在のみならず、夢想することや、数学的心理などの、あらゆる情報の総体。
宇宙	世界の中でも、客観的な対象として閉じている部分。物理宇宙。 物理相の内部において知り得る物事の全て。
存在	「見る側」と「見られる側」が相互に説明し合う在り方（様式）。
実在	「見る側」が無くとも、あり続ける在り方（様式）。客観はまだ観測を前提とするが、それすらも切り離した概念であり、過客観とも呼ぶ。
無限乱雑場	実在の別名。「見る側」の光の当て方によって、あらゆる種類の世界を浮かび上がらせる、全ての可能性を予め無限にランダムに持っている何者か。
現実	「見られる側」が無くとも、あり続ける在り方（様式）。主観はまだ観測対象を必要とするが、それすらも切り離した概念であり、過主観とも呼ぶ。
集積項	自が備える属性で、「無」に相当する。「自」同士は自己完結しているが、集積項を同一視し共有することで、並走が可能になる。
排他項	自が備える属性で、「有」に相当する。「無」に対置される任意の情報。異なる「自」の排他項は異なり、同一視できない。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

用語集（3/3）

用語	自循論での意味
対	自己完結する「自」が「無」を媒介として並走すること。自$_1$と自$_2$は、それぞれ自己完結し相手を内部に取り込んでいるが、同じ「無」を共有している。
相	「自」が、集積項を媒介として自己無矛盾性を維持しながら最大化した姿。最も多くの排他項を繋ぎとめている、意味の母体。
説明の輪	「自」の内部の要素がお互いを説明し合う関係。どれか一つの要素が最根源というわけではなく、差異性と同値性を説明し合うことで豊かな意味を算出する。
小さな説明の輪	同じ集積項を媒介として排他項を寄せ集め、お互いがお互いを説明する密度が最大になった状態。「相」のこと。
大きな説明の輪	物理相・生命相・精神相が、お互いに説明し合う状態。「世界」のこと。
最大の説明の輪	形式（時間・空間・論理）と、相（物理相・生命相・精神相）と、様式（現実・存在・実在）が、お互いに説明し合う状態。知性が知り得ることの限界を表す。
知性	自覚していることを自覚する能力。単に意識を持って自己という概念を自覚しているだけではなく、そのこと自体も自覚できる能力。
生命	連続的に自己を維持する現象。物理的な身体のことではなく、個体が代謝で身体を維持し、生殖によって種を維持するような、抽象的な現象のこと。

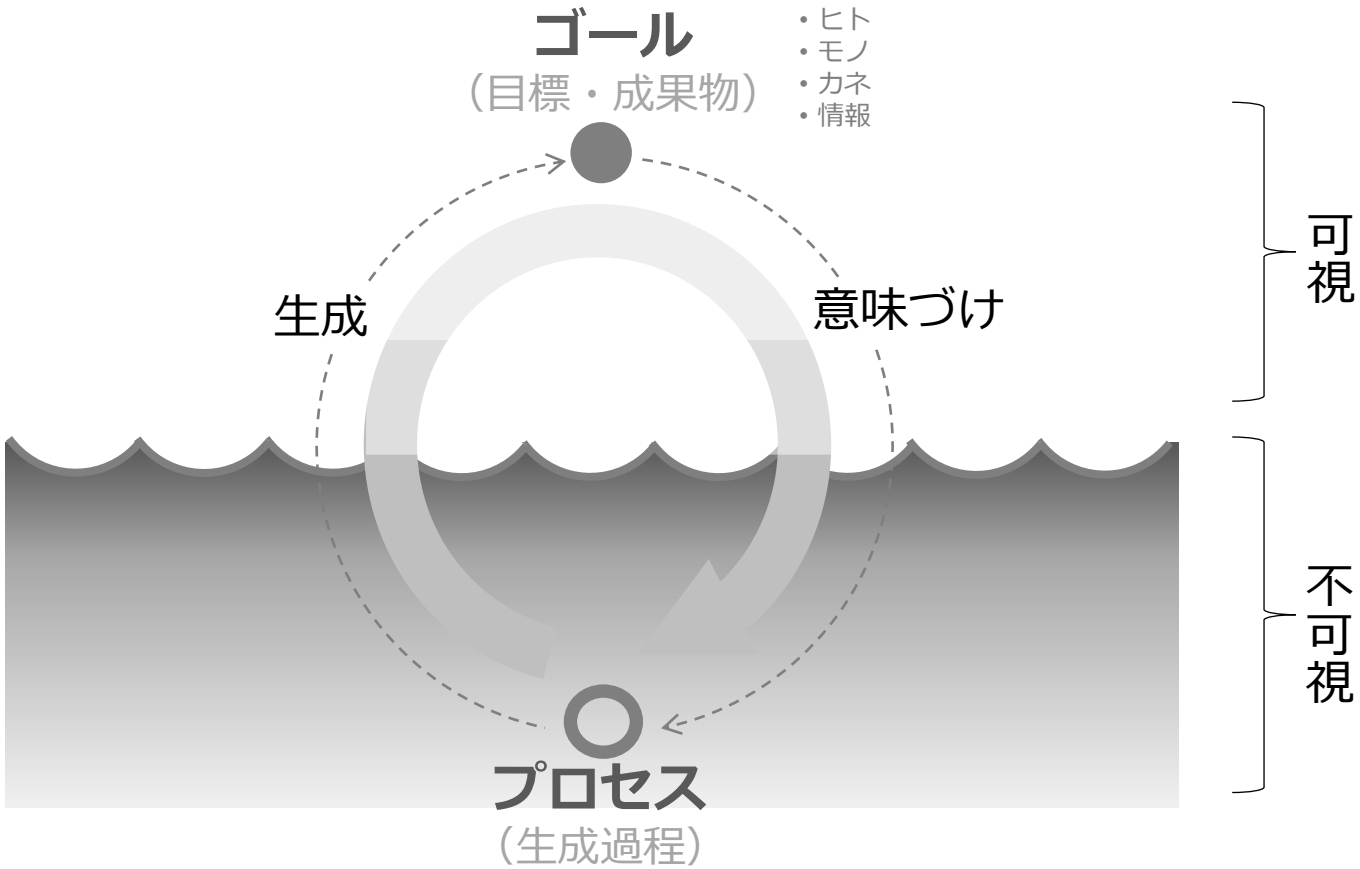
Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

参考資料・2
自循論とプロセス思考

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

存在 ＝ プロセス

ゴール と プロセス は 不可分



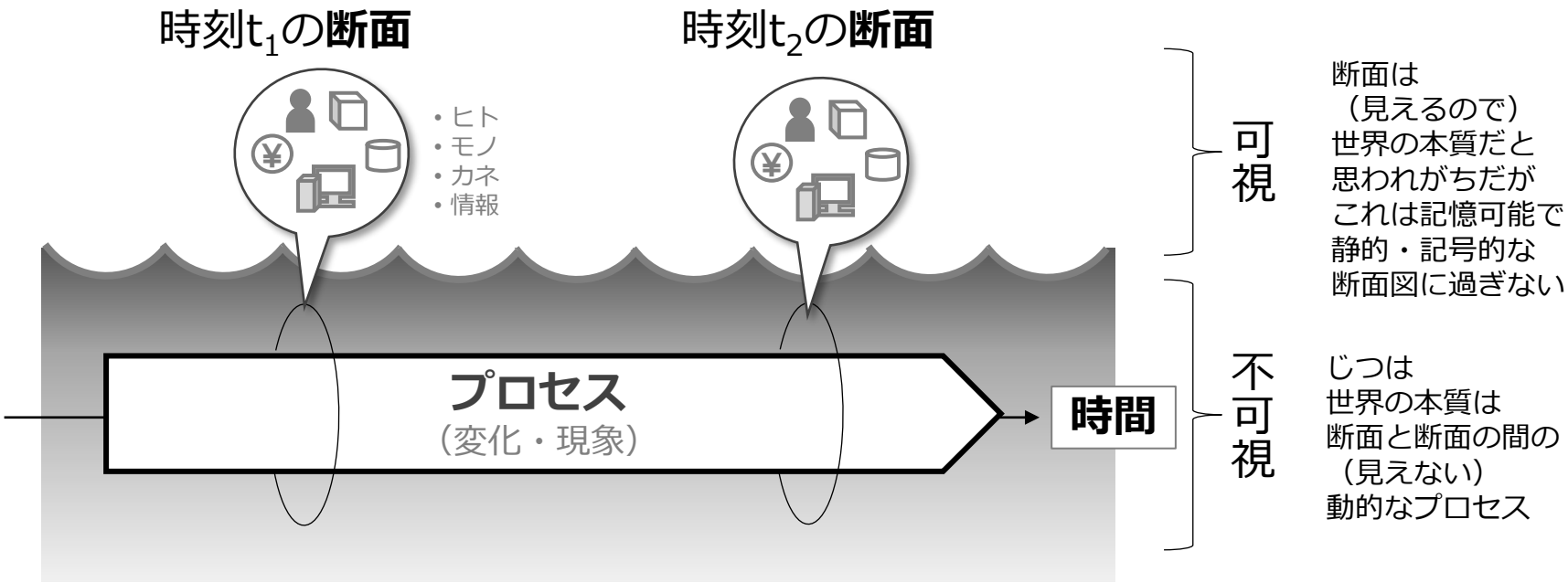
ゴールを持たないプロセスも、プロセスを持たないゴールも、無意味

（どちらかが より根源的 ということではなく、お互いが説明し合う関係）

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

存在 ＝ プロセス

物質 は 変化の断面

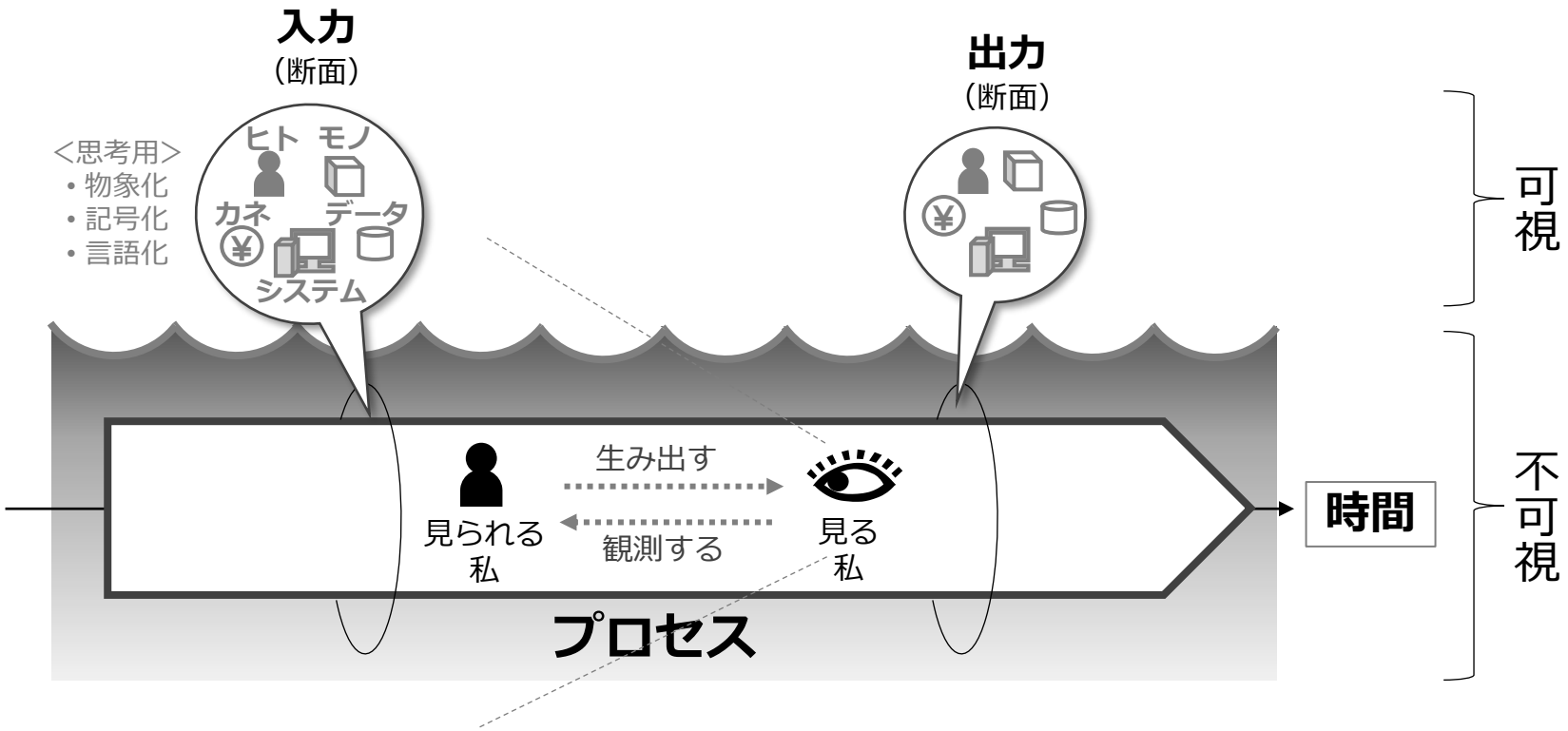


- 存在の本質は、静的な断面でなく、断面と断面の間の動的な変化
  - 相対論的説明：対象の位置ではなく、速度
  - 量子論的説明：観測対象ではなく、観測行為

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

存在 ＝ プロセス

存在とは、存在を存在させる プロセス（現象）

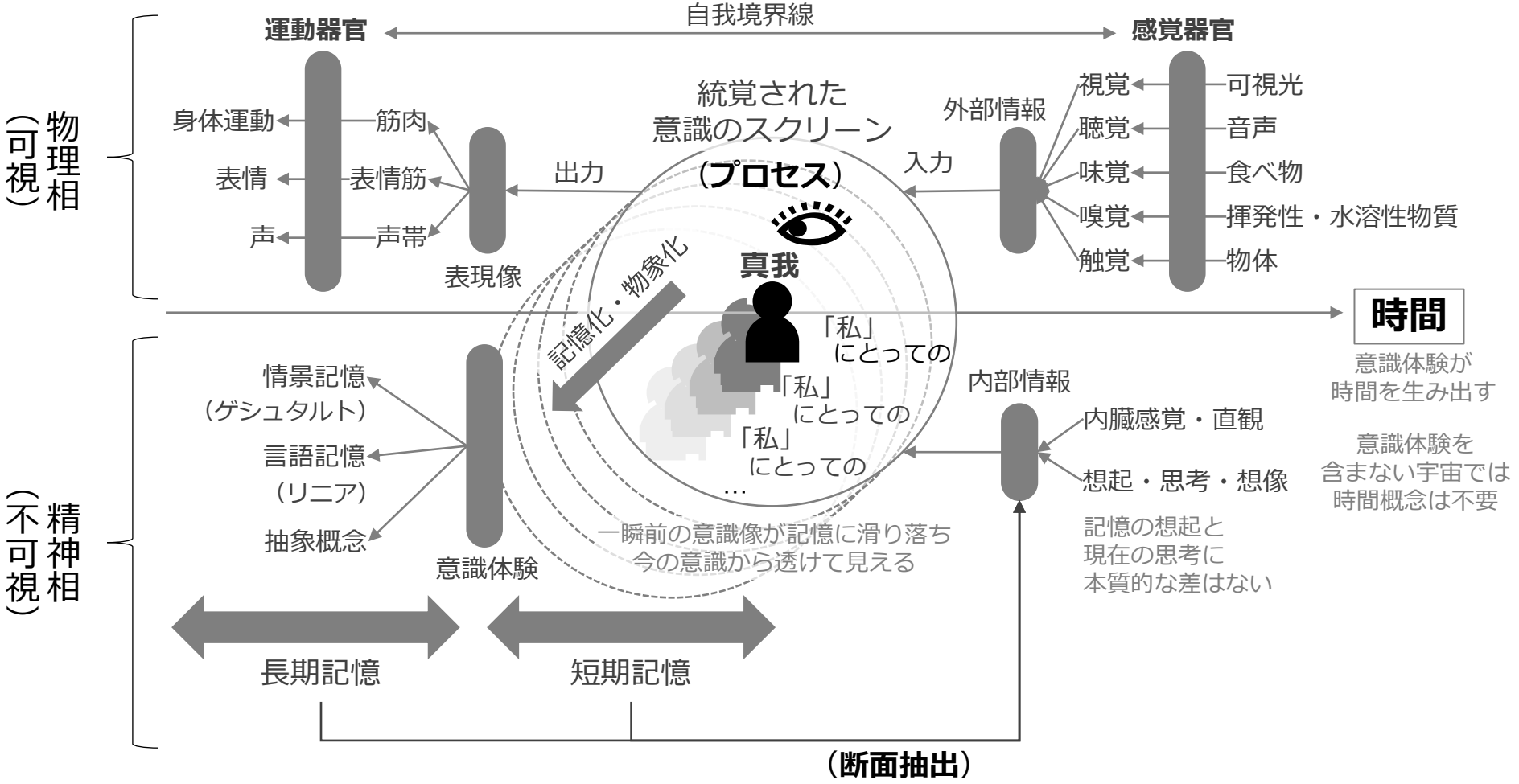


- 入力や出力は 思考用に物象化・記号化された 仮の断面
- 世界の実体は 断面と断面の間にある 継時的なプロセス

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

存在 ＝ プロセス

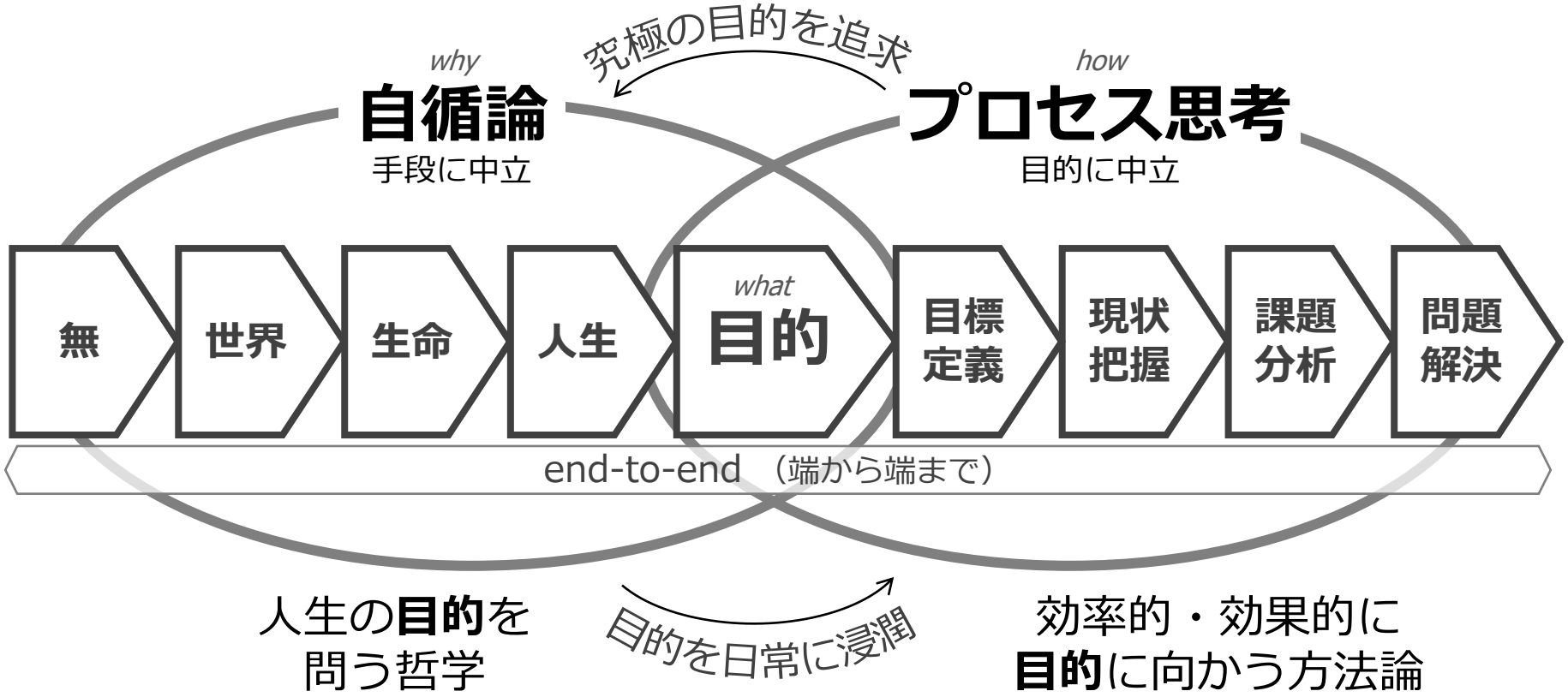
時間は、意識のプロセス から開闢する



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論 と プロセス思考

「なぜ生きるか」と「どう生きるか」



人生の毎瞬の充実が 人生の目的
（ゴールとプロセスの一体性の回復）

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論 と プロセス思考

プロセス = 目的に向かう時空内の変化

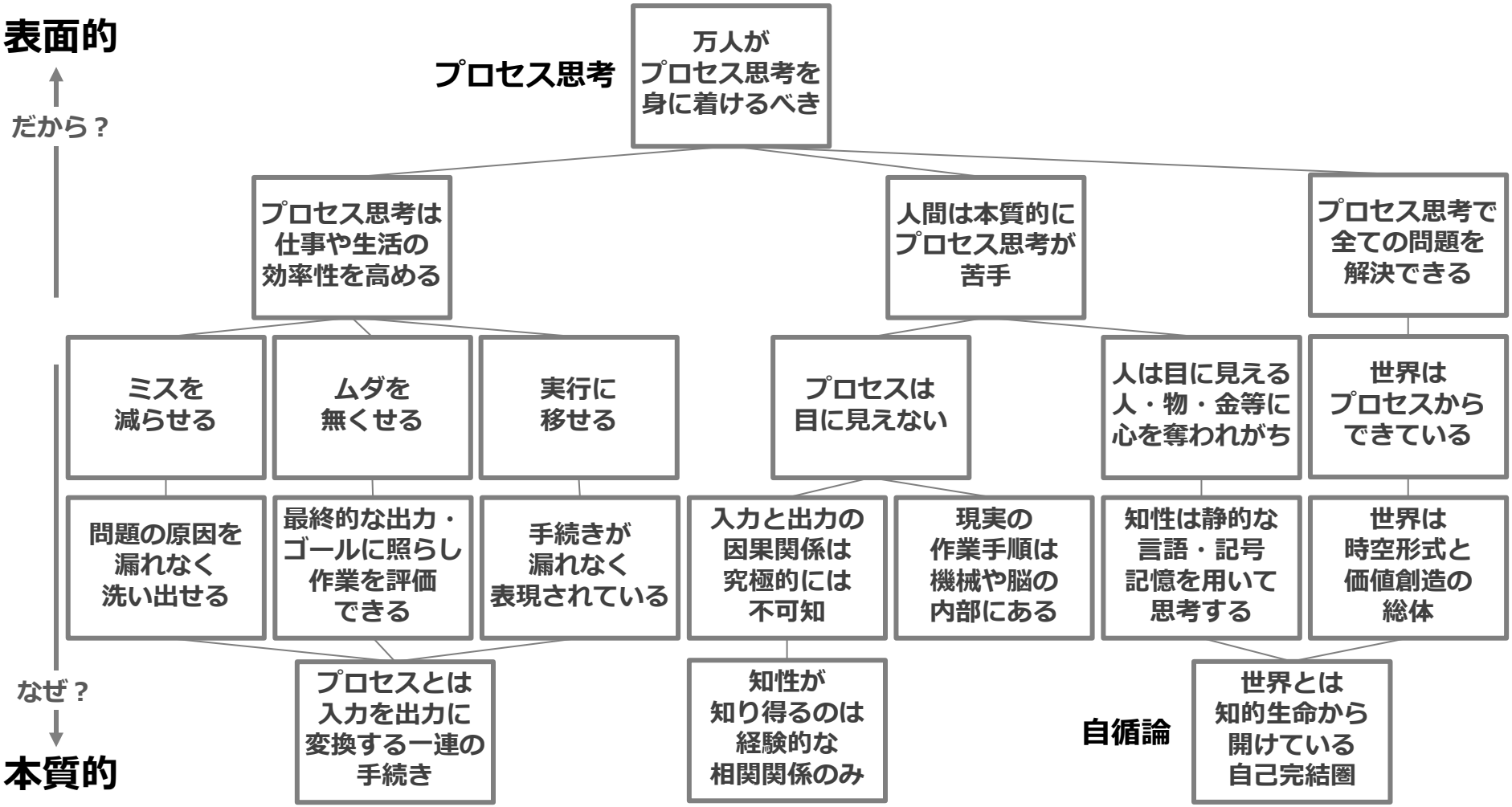
存在クラス	区分	時空性	目的性	繰り返し	例	
サイクル cycle	ある	時空的	有目的（生命性）	あり	• 日常業務 • ルーティン	プロセス思考
プロジェクト project				なし（1回限り）（唯一）	• 事業 • 人生	
宇宙 universe			無目的		• 物理宇宙 • 数学的宇宙	自循論
実在 reality	〈ある〉	非時空的（不可思）			• （物自体） • （無限乱雑場）	
無 nothing	〈ない〉				• （絶対無） • （未生の無）	

- **プロセス**とは、時空形式内部で価値を生み出す一連の手続きの集合であり、有期のものを**プロジェクト**、無期のものを**サイクル**と呼ぶ。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

自循論 と プロセス思考

万人がプロセス思考を身に着けるべき



Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.

すべてはお客様の
「わかった」
「なるほど」
「やってみよう」
のために

Current Color

本資料の内容の正確性には万全を期しておりますが、その完全性を保証するものではありません。
本資料のご利用により、ご利用者様に不利益があった場合、 または、ご利用者様と第三者との間に
トラブルが生じた場合、 当社は一切責任を負いかねますので、予めご了承ください。

Copyright ©2022 - 2024 Current Color Co. Ltd. All rights reserved.